



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

文部科学省委託事業

教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業
(新たな教育課題の必修化のための研究事業)

学生の学びを深める長期学校インターンシップの あり方に関する調査研究

—学生，学校，教育委員会の Win-Win-Win の関係構築のための連携—

報 告 書

平成 30 年 3 月

国立大学法人 岡山大学

目次

1. 調査研究の概要
 - 1.1 課題認識
 - 1.2 調査研究の目的
 - 1.3 調査研究の具体的な内容・取組方法
 - 1.4 調査研究の実施計画(当初案)
 - 1.5 調査研究の実施体制

2. 岡山大学における長期学校(教職実践)インターンシップ
 - 1.1 導入の経緯とこれまで
 - 1.2 平成29年度の教職実践インターンシップ実施と試行

3. 卒業生(平成25～28年度)へのアンケート調査

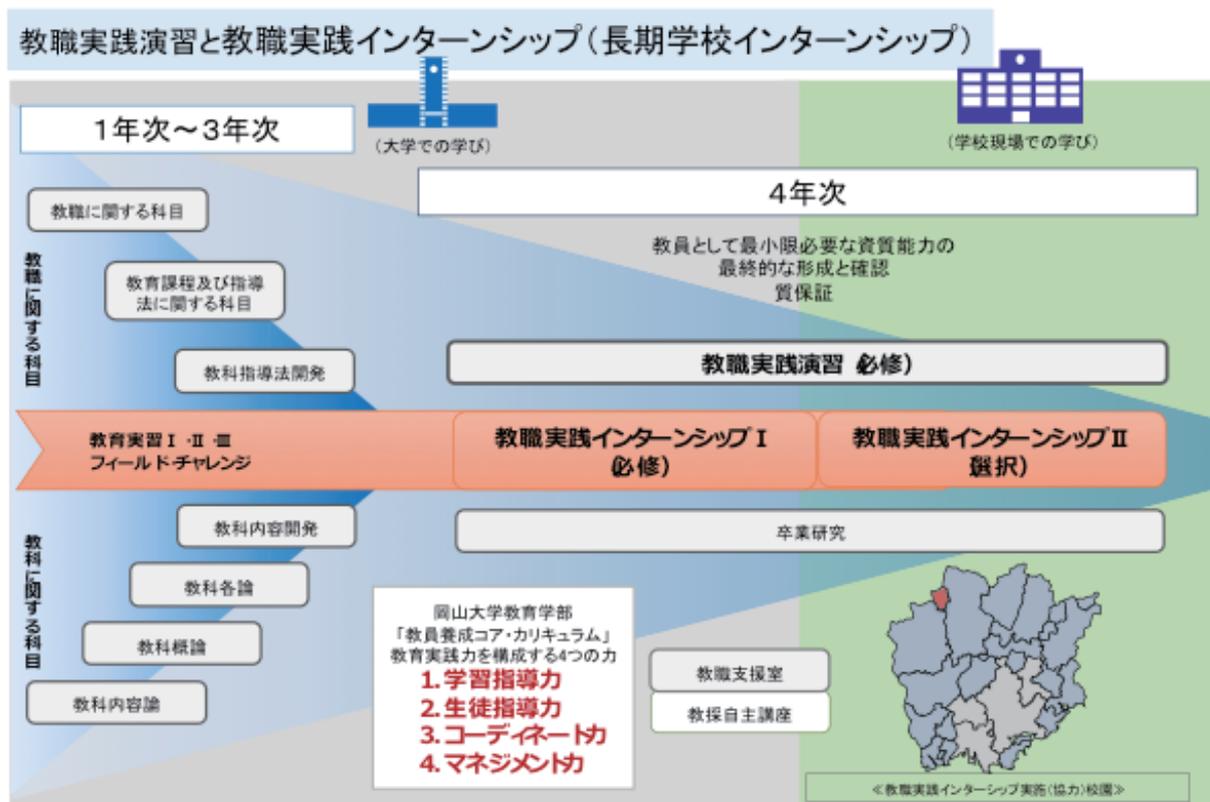
4. まとめ
 - 4.1 強化分散型試行のまとめと課題
 - 4.2 今後に向けて

1. 調査研究の概要

1.1 課題認識

中央教育審議会の「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」(平成 27 年 12 月 21 日答申)では、これからの時代の教員に求められる資質能力として「自律的に学ぶ姿勢を持ち、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質能力を生涯にわたって高めていくことのできる力」があげられ、そのためには教員の養成・採用・研修の一体的改革が必要であることが示されている。教員養成に関しては、実践的指導力の基礎の育成のため、**学校現場や教職を体験させる機会を充実**させることが必要であることが指摘されている。その具体的な方向性として、学校インターンシップの導入が示されており、理論と実践の往還による実践的指導力の基礎の育成に有効であることが期待されている。学校における諸課題を体験することの必要性は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について(平成 24 年 8 月 28 日答申)」でも指摘されており、「いじめ・暴力行為・不登校等生徒指導上の諸課題への対応について理解を深める活動」にも重点を置くなど、幅広い教育実践指導力の育成が可能となるような学校現場での学びの機会が重要であるとされている。これらの答申からも明らかなように、教員養成における実践的指導力の育成には、教育現場での体験的授業科目が必須であるといえ、岡山大学では、平成 25 年度より、長期間にわたる教職実践インターンシップ(公立学校園で 3 ヶ月以上、週に半日～1 日)を 4 年次生に必修化して実施している。この中で、学生は学校のおよそ 1 学期に相当する期間における教育活動に主体的、長期的に関わることで、短期的、即時的変化だけではない子どもや学校の変化を体験することができる。学習指導力の獲得に重点が置かれる教育実習に対して、このインターンシップでは、多種多様な教育課題を経験することが可能であり、教職に就く上での自己課題を明確にし、その解決方法を見出すことを通して、実践的指導力の獲得を目的としている。これまでも教育実習の他に、学校支援ボランティアとして学校現場での学びの機会を得ている学生も少なくないが、実践的指導力の基礎の育成のためには、その活動や課題を大学に持ち帰り、**理論と実践の往還を通して活動を評価・改善できる分散型の長期インターンシップ制度が最適である**と考える。岡山大学ではこの長期分散型のインターンシップにおいて、学習指導力のみならず、生徒指導力、コーディネート力、マネジメント力の、教育実践力を構成すると考えている 4 つの力の育成に効果がみられている。しかし、その効果には個人差があり、学生個人の要因のみならず、受入れ学校の体制(環境)も影響していると考えられる。インターンシップ導入時、学生にも学校現場にもメリットがあることが継続連携のための条件となると考え、学校課題の解決のための研修等に大学教員が関わることを想定していたが、こちらについては十分な成果を上げることができていない。教員の事務作業の補助を学生が行なうことで、学校にはメリットとなるが、学生の実践的指導力の向上には必ずしもつながらないなどの課題もある。学生が実践的指導力の基礎の育成に成果を上げると同時に、学校にもメリットになるためには、両者のニーズを十分マッチさせた上で実施することが重要である。そのためには、このインターンシップを通して、教員の養成から教職生活までを一貫して見通した上で、その資質向上に関わる教育委員会と大学、学校が連携することで、課題を明確にし、改善に努めることが必要である。

本調査研究では、大学が教員養成カリキュラムに位置付ける「長期学校インターンシップ」を学生の実践的指導力の基礎の育成に効果を上げると同時に、学校が抱える教育課題を解決するために、大学、教育委員会、学校の三者が連携し、それぞれの課題を明確にした上で実施方法、支援体制を構築することを目指したい。インターンシップを継続的に実施するためには、大学、教育委員会、学校が Win-Win-Win の関係で協働することが重要であり、この取り組みが、様々な教育課題に対応できる教師としての資質能力を具体化するとともに、教員養成の段階から教師としての資質能力を身に付けるために大学と教育委員会や学校が連携・協力する体制が構築できるものである。**学校のニーズに沿ったカリキュラム開発を共に進めることは、新たな「大学と教育委員会・学校の連携」のモデルとして教員養成課程を有する全国の大学の参考になると考える。**



1.2 調査研究の目的

本調査研究の目的は、長期学校インターンシップの効果と課題を明らかにし、学生、学校の両者にとって実効性のある取組みとなるように、大学が教育委員会や学校と連携して改善・開発することである。調査研究は岡山大学で実施している「長期学校インターンシップ(岡山大学での授業名：教職実践インターンシップ)」を対象として行なう。平成25年度～平成28年度に教職実践インターンシップを受講した学生が教職に就き、自らのキャリアステージに応じて求められる資質能力を考える視点からインターンシップの効果と課題を振り返ることを通して、「長期学校インターンシップ」のあり方を検討するものである。

学生の現状として、岡山大学では実践的指導力を構成する力として、学習指導力、生徒指導力、コーディネート力、マネジメント力の4つを設定し、これら4つの力をバランスよく育成

することを目指している。学生はインターンシップにおける課題として、特に伸ばしたい力としていずれか1つの力を設定しており、これらの力をインターンシップにおいて伸ばすことが、一人一人の学生にとっての実践的指導力の基礎を育成することにつながっている。これまでの調査研究では、学生がインターンシップで経験する様々な学校での活動が、これら4つの力を伸ばすことに効果があり、特に生徒指導力の高まりの自己評価が高く、一方、コーディネート力の高まりは不十分であることを示している。これらの自己評価は、経験した活動によって当然のことながら左右されるが、メインで授業指導を行なった学生は学習指導力のみならず、マネジメント力やコーディネート力も高める効果があるなど、直接的な効果のみならず、活動による相乗的な効果も期待できることを報告している。しかし、この効果は受入の学校の体制や環境にも影響を受けるものであり、「長期学校インターンシップ」が**学生の実践的指導力の育成に効果的であるためにはどのような環境整備（インターンシップの実施形態、学生の準備、学校受入れ体制など）が必要なのかを明らかにすることが必要である。**

学校側は、インターンシップ学生を受入ることで、学校現場に活気が出る、児童生徒の日々の学校生活に好影響が出るなどの調査結果があるが、一方で、指導教員が学生の教育効果への実感することは必ずしも高くなく、手探りの状態であることが伺える。また、学校にはそれぞれの教育課題があり、その学校の教育課題が学生の学び、受入れ体制へ大きく影響している可能性がある。そこで、学校課題を大学教員、教育委員会とともに解決していくことがインターンシップを継続する上で重要であり、この課題解決の過程を学生が体験することも、貴重な学びであると考えられる。そこで、**インターンシップを通して、大学教員がどのように学校課題に取り組み、解決することができるかについて方策を示すことが必要である。**

1.3 調査研究の成果目標

本調査研究の目的である、長期学校インターンシップが学生、学校の両者にとって実効性のある取組みとなるように、大学、学校、教育委員会がそれぞれの役割を果たすことが必要である。そのために、大学においては、インターンシップ実施の期間や日数、形態及び活動内容などを示すことにより、効果的なインターンシップのあり方を示すことができると考えられる。これらの効果的なインターンシップは学校現場の受入れ状況、学校環境にも大きな影響を受けるものであり、それぞれの学校が持つ課題を教育委員会、大学の連携のもと解決に努めることで、学校の教育力の向上につながり、そのことが学生への良い学びにつながると考えられる。これは、教員養成の段階から教師としての資質能力を身に付けるために大学と教育委員会や学校が連携・協力する体制が構築できるものであり、採用後の研修についても三者が協働することになり、養成から研修を通して、教員養成機関と教育委員会が連携することのモデルを示すことができるものと考えられる。さらに、これらの取組みの中で、インターンシップの位置づけを明確にし、教育実習やボランティアとの役割分担を示すことにもつながると考えている。

【成果目標（当初）】

大学	①長期学校インターンシップの効果と課題を明らかにした上で、効果的な実施形態（期間、日数等）や活動内容を示す ②モデル校における長期学校インターンシップを通して、大学教員が学校課題の解決のための支援に関わる体制を整備する
----	--

学校	①長期学校インターンシップの学生を受入れ、指導する中で、学生・学校両者への効果と課題を把握する ②学校課題を明確にし、大学・教育委員会と連携し、解決に取り組む
教育委員会	①学校、大学と連携し、課題を踏まえた上での教員育成の視点から、養成、研修への支援を検討する

本調査研究の成果は、「大学と教育委員会・学校の連携」について全国の教員養成に関わる大学への提案となることを目標とする。まず、毎年定期的に開催している岡山県・岡山市教育委員会との合同連携協力会議で、「長期学校インターンシップ」の構築が大学と教育委員会・学校の連携の大きな成果であることを確認し、この成果を毎年作成している「連携協力事業研究報告書」の中に取りまとめ報告する。

1.4 調査研究の具体的な内容・取組方法

平成 25 年度から教育学部の全学生の必修科目として、学校現場の教育課題を直接知り、自己の課題を解決する機会として実施している「長期学校インターンシップ（岡山大学での授業名：教職実践インターンシップ）」について、教員養成段階にある学生にとっての意義や効果に加え、学校においても学校課題の改善に効果的な取組みとなるよう、教員養成カリキュラムへの位置づけや課題についての検討資料を得るため、以下のような調査研究を実施した。

・平成 25～28 年度に実施した教職実践インターンシップ受講生のアンケート調査

平成 25～28 年度に実施した教職実践インターンシップの受講生（卒業生）約 1,000 名に対してアンケート調査を実施した。調査の内容は、教職実践インターンシップにおける活動内容および、その活動による実践的指導力の育成への効果であり、教職生活を通じた教育実践力の育成においてどのような効果が見られるのか、改善点は何かについてである。この受講生には在校時に受講後のアンケートで効果について調査を行っているが、教職に就いた後、振り返っての調査を行なうことで、より客観的なデータが得られることを期待して実施した。

・平成 29 年度実施の教職実践インターンシップにおいて試行モデルの実施

岡山大学の教職実践インターンシップは大学が所在する岡山市を中心に周辺市の小中学校 30 校で実施しており、期間は約 3 ヶ月、週あたり半日～1 日の実施である。平成 29 年度の教職実践インターンシップにおいて、遠隔地（大学よりおよそ 100km）にある小中学校で週 2 日（1 泊 2 日合計 10 日間、期間は約 3 ヶ月：強化分散型）の実施を試行した。試行の目的は、①実施形態の違いによる学びの効果（週半日→週 2 日連続）、②小中学校が地理的に隣接する学校で隣接校種でのインターンシップを行なう効果、③人口減少地域の教員研修の機会が少ない学校における学校課題への大学教員の支援、④学校課題解決に対する教育委員会の連携、を検討することである。この実施により、長期学校インターンシップの実施形態や、活動内容などについて、現行の実施形態と比較することを通して効果と課題を検討した。

・平成 29 年度実施の教職実践インターンシップ受講生のアンケート調査

平成 29 年度に実施した教職実践インターンシップの受講生 280 名に対してアンケート調査を実施した。調査の内容は、教職実践インターンシップにおける活動内容および、その活動による実践的指導力の育成への効果であり、従来の長期分散型と今回試行の強化分散型の結果の違いを比較し、効果と課題を明らかにした上で、今後の長期インターンシップのあり方について検討した。

・平成 29 年度に実施する教職実践インターンシップの協力校（モデル校）およびその学校を管轄する教育委員会への訪問調査および意見交換

平成 29 年度に試行した強化分散型のインターンシップ協力校および管轄する教育委員会へ訪問調査を行い、受け入れ側の課題と成果について聞き取り調査を行った。強化分散型のインターンシップの成果や課題を共有し、インターンシップの多様な実施形態や大学教員の学校課題への支援についての意見交換を行なった。その結果を元に、次年度の計画を検討した。

1.5 調査研究の実施計画(当初案)

調査研究の時期と内容	
4 月	各月冒頭の（ ）は、現行の教職実践インターンシップ（長期分散型）実施に関わる事項 (H29 年度教職実践インターンシップ：4 年次生「事前指導」) 強化分散型（試行）教職実践インターンシップも「事前指導」同時施行 強化分散型（試行）教職実践インターンシップ協議会・打合会 (新庄村教育委員会，新庄小・中学校)
5 月	(H29 年度教職実践インターンシップ協議会・打合会（教育委員会，全協力校園）) 強化分散型（試行）教職実践インターンシップ協議会・打合会 (新庄村教育委員会，新庄小・中学校)
6 月	(H29 年度教職実践インターンシップ：活動開始（～7 月，一部は 9 月まで）) ・強化分散型（試行）教職実践インターンシップ活動開始（～9 月まで）
7 月	・H25～H28 年度教職実践インターンシップ受講生（卒業生）アンケート調査 (H29 年度教職実践インターンシップ：終了（一部は 9 月まで）) ・強化分散型（試行）教職実践インターンシップ校における学校課題等についての協議 学校課題および支援策等について，大学，学校，教育委員会で検討を行い，支援計画を決定する。

8月	・アンケート調査の集計・分析（～9月）
9月	（H29年度教職実践インターンシップ：終了） 強化分散型（試行）教職実践インターンシップ終了
10月	・学校課題改善のための支援（～12月） ・強化分散型（試行）教職実践インターンシップ反省会 （新庄村教育委員会，新庄小・中学校） ・教育委員会（岡山県教育委員会，岡山市教育委員会）との連携協力会議にてインターンシップの効果的なあり方について意見交換
11月	・調査研究を踏まえての教職課程（インターンシップ）検討委員会にて今後のインターンシップのあり方について検討（～1月まで月1回程度）
1月	（H30年度教職実践インターンシップ：配当協力校園の決定） ・インターンシップの調査研究成果を踏まえてH30年度の教職実践インターンシップ実施を計画
2月	（H30年度教職実践インターンシップ：履修者名簿，履修調書を教育委員会と学校へ送付）
3月	・報告書作成

1.6 調査研究の実施体制

所属部署・職名	氏名	役割分担
岡山大学・学長	楨野 博史	事業代表者
教育学部・学部長	高塚 成信	事業実施責任者
教育学部・副学部長	三村 由香里	事業実施副責任者
教育学部・副学部長	加賀 勝	事業実施副責任者
教育学部・教授	浮田 真弓	事業実施担当者
教育学部・教授	齋藤 武	事業実施担当者

教師教育開発センター・教授（特任）	近藤 弘行	事業実施担当者
教育学部・准教授	上村 弘子	事業実施担当者
教育学部・講師	高岡 敦史	事業実施担当者
教育学部・講師	原 祐一	事業実施担当者
教育学系事務部・事務長	阿藤 俊二	事務担当責任者
教育学系事務部・教職支援グループ主査	佐々木 雅徳	事務連絡担当者
教育学系事務部・教務学生グループ主査	山本 準	事務担当者
教育学系事務部・会計グループ主査	目黒 貴久	事務担当者
教育学系事務部・教務学生グループ	坂本 泰彦	事務担当者

2. 岡山大学の長期学校(教職実践)インターンシップ

2.1 導入の経緯とこれまで

岡山大学における長期学校インターンシップ(授業名:教職実践インターンシップ)は、平成 22 年度入学生から教員免許状取得の必修科目として、最終年次に義務づけられた「教職実践演習」の設定の趣旨に基づき、教員として最小限必要な資質能力の最終的な形成と確認を行なうためのフィールドワークとして「教職実践演習」と連動して行っている。

導入にあたっては、文部科学省特別経費事業「先進的教員養成プロジェクト」のキックオフミーティング(平成 23 開催)において、長期学校インターンシップにおけるワークショップを行い、教育委員会、学校現場、大学の立場からそれぞれ意見交換を行った。その後、平成 24 年度にはプレ試行として 2 市 6 校、約 15 名の学生で開始し、学校の直面している諸課題の解決に大学教員が貢献する「オンデマンド研修」と連動する形で実施した。学生にとっては通常の実習ではできない教職経験ができ、教職への理解と意欲を深めることができ、学校側からの評価も高いものであった。翌平成 25 年度からは、4 年次生 280 名全員が必修として、大学周辺の 4 市 30 校園程度で実施した。協力校の確保は、市教育委員会の協力により可能であった。一方で、教育現場にとって、大学生が入ることのメリットもあり、4 市のうちの 1 市については市教育委員会からの要請で協力校を引き受けていただいた。その後も学校単位での要請により協力校園数が増え、平成 28 年度には合計 33 校園で実施することができた。

2.2 平成29年度の教職実践インターンシップ実施と試行

4年次生対象の教職実践インターンシップの実施については、まず、3年次 12 月の時点で第1回説明会を実施し、目的などを説明し、活動希望地域を決定する。その後、4年次生の 4 月(平成 29 年 4 月 26 日)に実施に関する具体的な説明を行い、活動日などを決定した。平成 29 年度においては、強化分散型として一部実施形態の異なるものを試行した。

	長期分散型(従来)	強化分散型(試行)
実施期間	5月～7月(9月)	5月～9月
実施条件	① 9日間以上 ② 7週以上 ③ 40時間以上 (1日は必ず8時間以上)	① 9日間以上 ② 7週以上 ③ 40時間以上 ④ 2日間以上を連続
実施校	小学校または中学校 (主免に応じて)	小学校及び中学校 (主免に関わらず)

協力校については市町村教育委員会を通じて依頼していただき、長期分散型については実習の前会で打ち合わせ会と反省会をそれぞれ大学において実施した。出席者は主に学校長であり、打ち合わせ会においては教職実践インターンシップの目的について説明を行った。インターンシップは実習ではなく、学校支援ボランティアでもないことから、受け入れ校において「受け入れ学生にどのような活動をさせるのか」、「どのくらい教員が関わるのか」などの質問が多くあり、「教職実践インターンシップで学生をご指導

いただく先生へ「教職実戦インターンシップが目指すもの」の資料を作成し、校内で情報を共有していただくことをお願いしている。今年度の打ち合わせ、反省会については以下のように実施した。

		長期分散型(従来)	強化分散型(試行)	
打ち合わせ会	日程	5月11日	4月28日	
	開催場所	岡山大学	協力校	
	出席者	大学	学部長 インターンシップ専門委員	副学部長 協力校担当教員
		学校	校長等	校長 教頭 担当教員
	教育委員会	課長等	教育長 課長	
修了時意見交換	日程	/	9月10日	
	開催場所		協力校	
	出席者		大学	副学部長 協力校担当教員
			学校	校長 教頭
反省会	日程	12月7日	11月20日	
	開催場所	岡山大学	協力校	
	出席者	大学	学部長 インターンシップ専門委員	副学部長 協力校担当教員
		学校	校長等	校長 教頭
反省会②	日程	/	2月27日	
	開催場所		協力校	
	出席者		大学	副学部長 協力校担当教員
			学校	校長 教頭
	教育委員会	課長		

各協力校園の教職インターンシップ担当教員は、インターンシップ実施期間中に協力校へ複数回訪問を行う。1-3回程度の訪問が多かったが、強化分散型においては、6回の訪問指導を行った。加えて、必要に応じて、担当教員及びコーディネーター教員が必要な指導や相談を行える体制を整えており、この訪問により学校現場の課題を把握することでオンデマンド研修につながることもある。強化分散型の協力

校において、教職員、PTA を対象とした「思春期の子の心の理解」の研修依頼があり、専門の大学教員が講演を行い、保護者のニーズに応じて継続的な個別対応についても協力体制を整えることになった。

反省会での学校側からの意見・感想として「積極的に活動していた」、「教員になるものとしての意欲が見られた」、「学校教職員への好影響もある」などの肯定的なものがある一方で、「何を目的としているかわからない」、「学生の態度に差がある」、「教員を目指さない学生にとっての必要性がわからない」などの課題の指摘も見られた。強化分散型の学校については、終了時の意見交換を含めて3回の反省会を行った。以下、学校側からの成果と課題をまとめる。

成果	放課後学習など積極的に学生にも声かけをしてもらい質問しやすい雰囲気勉強ができていた
	保健室登校の生徒に関わりを持ってもらえ、教師とは違う「ななめの関係」のような感じで新たな価値観に接することができた
	授業後の振り返りなどもできていた
	専門教科の特性を生かして授業(補助)をしてもらえた
	子どもたちにとっての関わりが有効であった
課題	学生の課題を踏まえた上での指導をするためには事前の打ち合わせが必要
	活動の記録をお互いに共有することが必要
	もっと積極的に教職員に質問をしてもらいたい
	活動の間隔があるので、授業の進度を予想できず、授業のメイン指導をしてもらいにくい
	スケジュール変更時の対応などが困る

今回試行の強化分散型の導入は、週半日程度の活動ではなく、連続して学校に関わることがより効果的であるのではないかと仮説に基づいてのものであった。協力校が大学から約100kmの距離があるため、止むを得ず宿泊を伴う活動になったが、その結果、教師の1日の活動を経験することができ、放課後を含めた児童生徒との関わり、地域を含めた学校全体の活動を体験する上では効果的であったと考えられる。一方で、2-3日の連続した活動であっても、授業の進度に合わせてメインで行う授業を行うことは難しく、今後の課題であると考えられた。強化分散型のインターンシップにおいては、協力校担当教員が打ち合わせ会から反省会に中心的な立場で出席することで、学校の意見・要望をもとに活動の計画、対応が丁寧に行えたことは成果であったと考えられる。また、11名の学生を所有免許に関わらず、隣接した小中学校の両方で活動させていただいたことは子どもの発育段階や教科の系統性を踏まえた指導を行う上での有効であった。一方で、学生の配当や宿泊、送迎などについては学校・教育委員会の協力なしでは行うことができず、今回は、中学校において一覧を作成していただいたが、今後、同様の活動を行う上では、教育委員会と学校の理解が重要であると考えられた。

2.3 平成29年度の教職実践インターンシップ受講者のアンケート調査

平成29年度のインターンシップにおいて、従来の長期分散型(40時間以上、9日以上、7週以上)に加えて、強化分散型(一部を1泊2日から2泊3日とする)を新たに導入した。教職実践演習の成果と課題、また、強化分散型との比較を行うため、平成29年度に教職実践インターンシップを履修した4年次生全員を対象にアンケート調査を行なった。調査は教職実践インターンシップに連動して行なった教職実践演習の最終日(平成29年12月)に実施した。回答者のうち、強化分散型を実施した学校教育教員養成

課程(小学校教育コース及び中学校教育コース)において比較を行なった(強化分散型 7名, 長期分散型 184名)。教職実践インターンシップの活動時間は 40-59 時間が 84.9%, 60-79 時間が 10.0%, 80 時間以上が 5.2%であり, 強化分散型の学生は全て 80 時間以上であった。

2. 3. 1. インターンシップにおける学生の活動経験率

インターンシップ形態	強化分散型		長期分散型	
	経験した	経験しなかった	経験した	経験しなかった
インターンシップ活動内容				
1. 授業におけるTTとしての補助	57.1	100	64.8	27.0
2. 授業におけるメイン指導	71.4	100	15.2	26.5
3. 特別支援を要する子どもに対する個別支援や補助	28.6	40.0	48.0	29.3
4. 別室登校をしている子どもに対する個別支援や補助	0	57.1	12.4	27.2
5. 児童会・生徒会活動の企画・運営や補助	42.9	0	11.2	17.0
6. 保護者対応の補助や様子の観察	14.3	66.7	12.9	23.2
7. 職員会議への参加	28.6	40.0	22.6	23.4
8. 校務分掌の補助	0	28.6	8.4	17.2
9. 学級通信の作成や補助	0	28.6	2.2	19.0
10. 学級掲示物の作成や補助	14.3	33.3	28.8	20.6
11. テストの採点や補助	28.6	40.0	51.7	23.0
12. 修学旅行等の校外行事の引率補助	42.9	75.0	9.0	18.6
13. 1日または半日の代理担任	0	14.3	2.8	16.2
14. 放課後学習指導や補助	85.7	100	13.0	18.7
15. 教材研究	57.1	33.3	7.9	18.3
16. 朝の会・帰りの会の進行や補助	57.1	33.3	39.9	15.9
17. 給食指導や補助	85.7	0	73.6	10.6
18. 清掃指導や補助	85.7	0	70.8	21.2
19. 運動会・文化祭等の学校行事の補助	100	-	13.8	42.1
20. 校内研究会への参加	28.6	20.0	10.7	12.6
21. 部活動指導や補助	71.4	0	11.8	15.3
22. 教室に入れない生徒への対応や補助	0	14.3	15.2	19.2
23. 子どもの問題行動の指導や補助	0	14.3	29.2	17.5
24. 特別活動の企画・運営や補助	0	14.3	9.6	17.4
25. 休憩時間中の校内巡視や補助	28.6	20.0	37.1	14.3
26. 宿題の作成や補助	0	28.6	11.9	13.5
27. 提出物の点検や補助	42.9	25.0	59.9	16.9

(経験したかったは経験しなかった者における割合)(%)

強化分散型においては, 宿泊を伴うため, 朝の会の進行や補助, 放課後学習指導や部活動指導及び補助など, 学校の1日を通した活動が可能であった。また, 2-3日の連続した活動であるため, 授業におけるメイン指導をさせていただく機会が多くなり(強化分散型 71.4% vs 長期分散型 15.2%), それに伴う教材研究の経験率も高かった。また, 運動会などの学校行事も強化分散型では全員が経験していた。運動会などの学校行事の補助, 授業への関わりは学生が経験したいと思う割合が高い活動であり, 強化分散

型では学生のニーズにあった活動が可能であった。一方で、強化分散型の協力校が小規模校であったため、特別支援を要する児童生徒、別室登校をしている児童生徒などの数が少なく、また、問題行動など、現代的な課題に対する経験率は低かった。

2. 3. 2. 活動日の打ち合わせ及び振り返りの実施状況

	打ち合わせ		振り返り	
	強化分散型	長期分散型	強化分散型	長期分散型
毎回行った	14.3	12.2	14.3	6.1
ほぼ毎回行った	28.6	15.6	28.6	10.6
何回か行った	57.1	40.6	57.1	43.9
全く行っていない	0	31.7	0	39.0

(%)

活動前の学校での打ち合わせ、終了後の振り返りとも、強化分散型で高い傾向が見られ、打ち合わせ、振り返りとも「全く行っていない」は0%であった。一方で、長期分散型では約3割の学生が打ち合わせ、振り返りを行っていない状況であった。

2. 3. 3. 教職実践インターンシップ全体の評価

	強化分散型	長期分散型
非常に充実していた	28.6	15.2
充実していた	57.1	34.8
どちらとも言えない	0	27.5
どちらかと言えば苦痛だった	14.3	14.6
苦痛だった	0	7.9

(%)

長期分散型の 50.0%、強化分散型の 85.7%が「充実していた」と回答していた。しかし、2割程度の学生が苦痛を感じている結果であった。強化分散型で苦痛だった学生は、「内容は充実していたが、これほどの時間をかける必要はなかった」と言うように、長時間の活動となったことが要因であった。

充実していたと回答した学生の自由記述では「多くの先生の授業を見ることで、様々な子どもへの配慮の方法を知ることができた」、「長期間継続的に学校に関わることで、子どもたちの実態、成長や変化を実感することができた」、「授業に対して積極的でない生徒や教師に対して反発する生徒とコミュニケーションを取ることは、学校現場の実態を知り、目指す教師像を大きく変えた」など、教師になる前段階に必要な気づきや学びに繋がったと考えられた。一方で、苦痛だったと回答した学生の自由記述では、「インターンシップの目的を学校側が理解しておらず、何をやって良いかわからなかった」、「学校現場は多忙であり、疑問に思ったことを質問したり、指導を受けられる雰囲気ではなかった」など、実施運営上の課題や受け入れ校の課題なども明らかになった。

2. 3. 4. 教職実践インターンシップを通じた4つの力の高まりに関する自己評価

		全く伸びて いない	あまり伸びて いない	どちらとも 言えない	まあ伸びた	非常に 伸びた
学習指導力	子どものレディネスや学習状況を把握すること	0 6.7	28.6 8.4	0 29.6	<u>71.4</u> <u>52.0</u>	0 3.4
	学習指導要領や教育課程をふまえて、学習指導案を作成すること	14.3 <u>34.1</u>	<u>28.6</u> 26.3	<u>28.6</u> 22.3	14.3 16.2	14.3 1.1
	様々な指導法を活用して、子どもの学習状況に応じた授業を行うこと	0 20.1	<u>42.9</u> 20.1	<u>42.9</u> 25.7	14.3 <u>30.7</u>	0 2.8
	自他の授業実践を分析し、授業の改善点を発見すること	0 16.9	28.6 14.0	<u>42.9</u> 21.9	14.3 <u>42.7</u>	14.3 4.5
生徒指導力	子どもの発達の特徴を理解すること	0 4.5	28.6 3.4	14.3 14.5	<u>42.9</u> <u>66.5</u>	14.3 11.2
	子どもの生活の実態を理解すること	0 2.8	0 2.8	14.3 14.5	<u>71.4</u> <u>63.1</u>	14.3 16.8
	子どもと共感的にコミュニケーションすることや、子ども同士のコミュニケーションづくりを指導すること	0 3.9	<u>28.6</u> 7.8	<u>28.6</u> 14.5	14.3 <u>63.7</u>	<u>28.6</u> 15.6
	子ども理解に基づき、学校や学級で子どもが楽しく生活できるよう指導すること	0 7.8	0 5.0	<u>42.9</u> 26.8	28.6 <u>48.0</u>	28.6 12.3
コーディネータ力	実習生同士で協働して学習指導や学級経営等に取り組むこと	0 <u>34.1</u>	28.6 18.4	<u>42.9</u> 23.5	0 19.6	28.6 4.5
	実習校の教職員とコミュニケーションをとり、連携すること	0 15.1	0 11.2	<u>42.9</u> 23.5	28.6 <u>41.3</u>	28.6 8.9
	学校に関わる協力者や専門機関と連携すること	0 <u>32.4</u>	14.3 21.8	14.3 22.9	<u>57.1</u> 20.7	14.3 2.2
	保護者や地域の人とコミュニケーションをとり連携すること	0 <u>39.1</u>	14.3 17.9	28.6 22.9	<u>42.9</u> 17.9	14.3 2.2
マネジメント力	自分で自分を律しつつ、意欲と課題意識をもって教育実践に取り組むこと	0 6.7	0 6.7	<u>42.9</u> 30.2	<u>42.9</u> <u>50.3</u>	14.3 6.1
	教員の使命や職務について理解し、専門職として求められる資質・能力等を高めていくこと	0 9.5	0 7.8	42.9 32.4	<u>57.1</u> <u>46.4</u>	0 3.9
	学級・学年目標の実現に向けて、子どもの集団に働きかけること	14.3 15.6	14.3 14.0	<u>28.6</u> 31.8	<u>28.6</u> <u>35.2</u>	<u>28.6</u> 3.4
	学校教育目標の達成に向けて、学校組織の活動内容や運営について理解すること	0 12.8	14.3 12.8	57.1 32.4	28.6 <u>39.1</u>	0 2.8

上段:強化分散型 下段:長期分散型(%)

アンダーラインは最多回答率

伸ばせた力	強化分散型	長期分散型
学習指導力	50.0	24.8
生徒指導力	33.3	67.4
コーディネータ力	33.3	13.2
マネジメント力	16.7	10.0

複数回答可 (%)

岡山大学教育学部が身につけるべき教育実践力として示している4つの力に対して、教職実践インターンシップを通

して高まった状況について調査を行った。最も高まった力は、強化分散型、長期分散型ともに「子どもの発達的特徴を理解すること」、「子どもの生活実態を理解すること」などの生徒指導力であり、特に長期分散型では67.4%が伸ばせたと回答していた。一方で、強化分散型では、学習指導力に加えて、「学校に関わる協力者や専門機関と連携すること」、「保護者や地域の人とコミュニケーションをとり連携すること」など、これまでの教職実戦インターンシップでは伸ばすことが難しかったコーディネート力も伸ばせたと回答した割合が高かった。強化分散型の協力校は人口減少が見られる地域の小規模校であり、学校が地域と密接に関わっている学校であり、インターンシップの活動の中で学校教職員以外の協力者や地域の方々と関わる、あるいはその場面を見聞きする機会が多かったものと考えられる。一方で、中学校においても1教科1教員であるため、「様々な指導法を活用して、子どもの学習状況に応じた授業を行うこと」が伸びたと感じる学生は14.3%とわずかであり、また、7割以上の学生が授業をメインで指導しているにも関わらず、「自他の授業実践を分析し、授業の改善点を発見すること」が伸びたと感じる学生も28.6%と3割以下であった。

教職実践インターンシップ事前指導

平成29年4月26日(水)

- ・16:20～16:50 教職実践インターンシップ：担当教員との協力校園別事前指導
- ・17:00～17:30 教職実践インターンシップ専門委員会による全体事前指導（於：5202）
- ・17:30～18:30 岡山県教育庁義務教育課課長講話（於：5202）

1. 目的

教職実践インターンシップは、「教職実践演習」設定の趣旨「教員として最小限必要な資質能力の最終的な形成と確認」に基づき、教育実践力を構成する4つの力(学習指導力・生徒指導力・コーディネート力・マネジメント力)の形成状況を確認することを目的とする。苦手分野の克服及び得意分野の伸張を図るために、大学で実施される「教職実践演習」と関連させながら、学校現場でのフィールドワークとして行われるものである。したがって、教職実践インターンシップでは、「教育実践力を構成する4つの力をバランスよく形成しているかどうかを最終確認し、実践的指導力を身に付けること」を目指す。教育現場での教育活動全般に取り組む中で、自己課題の確認、及び課題解決の方法等について学ぶものである。

2. 期間

教職実践インターンシップⅠ(必修)：5月～7月(一部9月)

第1回：5月15日(月)、16日(火)、18日(木)、19日(金)の1日(終日)

第2回目以降：4時間以上を8回以上、6週以上

**9回以上で、7週以上
で、かつ計40時間以上**

教職実践インターンシップⅡ(選択)：10月～12月

4時間以上を週1回程度、同じ協力校園で長期間実施

3. 協力校園

(1) 教職実践インターンシップ

○小学校(18校)

- ・岡山市11校：御野小学校・牧石小学校・津島小学校・伊島小学校・宇野小学校・中山小学校
清輝小学校・三敷小学校・岡南小学校・鹿田小学校・大元小学校
- ・倉敷市3校：西阿知小学校・庄小学校・帯江小学校
- ・総社市1校：総社中央小学校
- ・赤磐市2校：山陽小学校・山陽西小学校
- ・新庄村1校：新庄小学校

○中学校(13校)

- ・岡山市7校：岡北中学校・京山中学校・操山中学校・岡輝中学校・桑田中学校
御津中学校・妹尾中学校
- ・倉敷市3校：倉敷第一中学校・庄中学校・多津美中学校
- ・総社市1校：総社西中学校
- ・赤磐市1校：高陽中学校
- ・新庄村1校：新庄中学校

○幼稚園(2園) 岡山市2園：伊島幼稚園・御野幼稚園

○特別支援学校(2校) 岡山市2校：岡山県立岡山支援学校・岡山県立岡山東支援学校(肢体)

4. 主な活動内容・実習内容

- ・自己課題に関わる内容を中心とした教育活動全般(実地授業、授業補助、授業準備・片付け、児童生徒対応、給食指導、学級活動に関する指導、部活指導、下校指導等)である。実地授業をする場合、学生が授業計画や準備等に主体的に取り組み、協力校園教員の理解を得て実施するとともに、共同立案授業も可とする。なお、児童生徒理解に基づいたより実践的な学級経営、生徒指導、授業の在り方等を学ぶため、学級配当を原則とする。ただし、養護教諭養成課程の学生は、保健室配当も可とする。
- ・毎回退出時、出勤簿(名札の裏面)に日時及び時間数を記入し、協力校園教員に押印していただく。
- ・帰宅後、体験内容及び感想等を日誌(7.参照)に記入する。

5. 協力校実習の心構え

(1) 教育者としての自覚

- 「教育委員会・協力校園の善意で実習させていただいている」という自覚をもつとともに、教育者としての使命感・熱情を持って臨むこと。

(2) 教師らしい言動・態度

- 学校種に応じた教師らしい服装で臨むこと。
- 勤務時間を厳守すること。

- ・勤務時間より早めに出勤すること。
- ・初日は、実習生全員が時間を確認の上集合し、協力校園に同時に出勤すること。
- ・やむを得ない欠席、遅刻等は協力校園及び教務学生係に必ず電話すること。
- ・配当学生同士、連絡が取れるようにしておくこと。
- 礼儀：気持ちのよい挨拶を行うこと。
- 言葉遣い：教育者にふさわしい言葉を使うこと。
- 守秘義務：職務上知り得た秘密を口外しないこと。（個人情報管理責任）
- ・教師としての品位：交通違反、交通事故等の問題が起きないように注意すること。
- 平等・機会均等の観点：一人ひとりの児童・生徒に平等に関わること。
- 人権・人間尊重の精神：子どもの人権を尊重して関わること。

(3) 実習への取組方

- 課題意識を持って、積極的に様々な活動に取り組む。
- 児童・生徒と関わる際には、可能な範囲で担任等から教育方針や子どもの実態等を聞き、「自分が担任になったつもり」で指導にあたること。
- 児童・生徒と積極的に関わり、クラスの子どもの人間関係等の実態を把握する。
- 疑問に思うこと、あるいは、わからないことは先生方から積極的に指導を受ける。
- 校外学習等にも積極的に参加することが望ましい。（ただし、必要経費は自己負担が原則）

6. 協力校実習の注意事項

(1) 取組態度

- ・協力校の指導方針等を理解し、それに立脚した取組を行うこと。

(2) 禁止事項

- ・子どもとの個人的な交際（活動中、活動終了後）はしない。
- ・子どもや学校へのお礼の品物の贈呈等はない。
- ・附属学校と公立学校の比較はしない。
- ・個別の学校及び教師・生徒批判はしない。

(3) その他

- ・名札（出勤簿）への押印の場合、時間等は協力校における担当教員の指示に従うこと。名札は大学で用意したものを使用する。
- ・教科書・指導書等、借りたものは必ず活動期間中に返却する。
- ・できるだけ指導していただいた先生方へ、お礼状を出す。

7. 日誌

教職実践演習インターンシップについては、各学生が用意したノートを使用し、教職実践演習及び指導教員との懇談等の際に活用する。日誌の最初に自己課題を記入しておき、毎回、活動前に、1) 今回の目標、活動後には、2) 主な活動内容、3) 省察を記入する。日誌は、毎回、協力校園に持参し、協力校園の教員に求められた場合には提出する。

8. 携行品・その他

(1) 携行品

- ・筆記用具、名札（出席簿）、上履き、運動靴、体操服、日誌（その他、学校が指定するもの）

(2) 挨拶（指示された場合）

- 学生代表(副代表)：開始日等
- 全 員：クラス担任、児童・生徒への挨拶

(3) 通勤方法

- ・自分で学校の所在地を確認し、通勤に利用できる公共交通機関を調べておくこと。
- ・自動車・バイクによる通勤は厳禁です。
- ・自転車は二重ロックを推奨します。

(4) 控え室が準備されている場合は、責任ある管理をすること。

- ・掃除当番を決めて掃除する。
- ・貴重品は、各自で責任をもって管理すること。

(5) 出勤時刻

- ・協力校園の指定に従うこと。

(6) 集金

- ・実習に伴う費用の集金については、各協力校園と相談のこと。

(7) 学生保険（学生教育研究災害傷害保険等）

- ・未加入者は、教職実践インターンシップが始まるまでに必ず加入すること。

<注：インターンシップⅠに引き続き、インターンシップⅡを希望する者は、9月初旬に「活動計画書」を教務学生係まで取りに行き、指導教員及び協力校の実習担当教員に相談の上、9月中旬頃までに記入し、教務学生係に提出のこと（正確な提出期限については、掲示を確認すること）。>

平成29年度 教職実践演習（学校教育教員養成課程）授業日程

	年	月	日	曜	限	内容	形態	担当者	
H28年12月21日（水）7・8						・教職実践インターンシップ説明会・希望調査・教職実践演習の予定について			
前期 （1・2学期）	①	29	4	7	金	2	・オリエンテーション：「教職実践演習」についての説明 (位置づけ、意義、日程、クラス分け・担当教員、使用教室、評価方法、欠席日調査、クラス別での活動内容)	全体	安藤元紀
						3			・教職実践演習において体験してほしいこと
	②	29	4	12	水	7	・「生徒指導力」の観点について①	全体	安藤美華代
						8	・「コーディネート力」の観点について①		住野
	③	29	4	19	水	7	・「学習指導力」の観点について①	全体	尾島
						8	・「マネジメント力」の観点について①		金川
	4月26日（水）						・教職実践インターンシップⅠ 事前指導日		
	④	29	5	10	水	7・8	・ワークショップ型討論①（インターンシップの自己課題の検討）	クラス	講座
	5月15日（月）～5月19日（金）						・教職実践インターンシップⅠ 初回実習期間 ※5/17は副実習（小・中）事前指導日		
	⑤	29	5	24	水	7・8	・ワークショップ型討論②（自己課題の再検討及び分析と決定）	クラス	講座
	⑥	29	6	21	水	7・8	・教員としての資質及び能力とは何か	全体	三宅昭二
	⑦	29	7	5	水	7	・「生徒指導力」の観点について②	全体	安藤美華代
						8	・教職実践インターンシップに基づくグループ協議「生徒指導力」	クラス	担当校担当者
	⑧	29	7	19	水	7	・「コーディネート力」の観点について②	全体	住野
						8	・教職実践インターンシップに基づくグループ協議「コーディネート力」	クラス	担当校担当者
後期 （3・4学期）	⑨	29	10	18	水	7・8	・学校が教師に求める力量とはいかなるものか	全体	岡山県教育庁**
	⑩	29	10	25	水	7	・「学習指導力」の観点について②	全体	尾島
						8	・教職実践インターンシップに基づくグループ協議「学習指導力」	クラス	講座
	⑪	29	11	29	水	7	・「マネジメント力」の観点について②	全体	金川
						8	・教職実践インターンシップに基づくグループ協議「マネジメント力」	クラス	担当校担当者
	⑫	29	12	6	水	7	・児童を理解するとはどういうことか	全体	武藤*
						8	・生徒を理解するとはどういうことか		橋本*
	⑬	29	12	13	水	7	・「教育実践力」力量形成状況の評価について	全体	尾島
						8	・ワークショップ型討論（自己の力量形成状況の把握と評価）	クラス	講座
	⑭	30	1	10	水	7	・初任期教員のリーダーとしての資質	全体	金川
						8	・教職初期のキャリア形成の実際		現職教職大学院生
	⑮	30	1	17	水	7・8	・「教育実践力」力量形成状況の自己評価レポート作成	クラス	講座

* 本学教師教育開発センター教員

** 岡山県教育庁義務教育課より派遣

平成 29 年度 教職実践インターンシップ打ち合わせ会

日時：平成 29 年 5 月 11 日（木）10:00～11:30

場所：岡山大学教育学部 本館 4 階 第一会議室

1. 期間

第 1 回：5 月 15 日（月）・16 日（火）・18 日（木）・19 日（金）の 1 日（終日）

第 2 回以降：4 時間以上を 8 回以上，6 週以上，各自の計画に基づいて実施

2. 協力校園

○小学校（17 校 173 名）

- ・岡山市 11 校：御野小学校・牧石小学校・津島小学校・伊島小学校
宇野小学校・清輝小学校・三勲小学校・岡南小学校
鹿田小学校・大元小学校・中山小学校
- ・倉敷市 3 校：西阿知小学校・庄小学校・帯江小学校
- ・総社市 1 校：総社中央小学校
- ・赤磐市 2 校：山陽小学校・山陽西小学校

○中学校（12 校 78 名）

- ・岡山市 7 校：岡北中学校・京山中学校・操山中学校・岡輝中学校
桑田中学校・御津中学校・瀬尾中学校
- ・倉敷市 3 校：倉敷第一中学校・庄中学校・多津美中学校
- ・総社市 1 校：総社西中学校
- ・赤磐市 1 校：高陽中学校

○幼稚園（2 園 15 名）

- ・岡山市 2 園：伊島幼稚園・御野幼稚園

○特別支援学校（2 校 14 名）

- ・岡山市 2 校：岡山県立岡山支援学校・岡山県立岡山東支援学校（肢体）

※新庄村：新庄小学校・新庄中学校 計 11 名

3. 教育実習生の既有経験

①学校教育教員養成課程

- 1 年次実習（教育学部附属学校園観察・参加）
- 2 年次実習（県立特別支援学校観察・参加）
- 教育実習基礎研究（3 年次前期）
- 附属学校園での主免実習（3 年次後期 4 週間）
- 人権教育の講義

②養護教諭養成課程

- 1年次実習（教育学部附属学校園観察・参加）
- 2年次実習（県立特別支援学校観察・参加）
- 養護実習基礎研究（2年時後期）
- 附属学校園での養護実習（3年次前期）
岡山市内の協力小学校での養護実習（3年時後期）
- 人権教育の講義

4. 成績評価

協力校において活動の実施確認をして出勤簿及び評価票に基づき、学部で修了判定を行います。

教職実践インターンシップで学生をご指導いただく先生方へ —教職実践インターンシップが目指すもの—

岡山大学教育学部

教職実践インターンシップ専門委員会

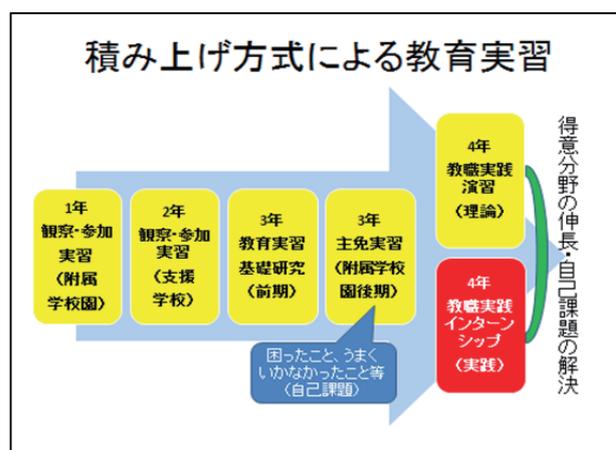
平成 28 年度教職実践インターンシップ I (4 年次前期必修科目) では、教育学部の学生約 290 名が 33 の協力校園で、学校現場でしかできない貴重な経験をさせていただきました。大変ありがとうございました。その成果を検証し課題を把握するために、協力校園の先生方にアンケート調査をお願いしましたところ、「受け入れ校で先生方が何を指導してよいのか明確でない。」「インターンシップを行う学生が何をやるのか理解していない。」というご指摘を多数いただきました。

そこで、協力校園の先生方に教職実践インターンシップの趣旨を理解していただき、ご指導の参考にしていただけるよう資料を作成いたしました。

○教職実践インターンシップとは？

教職実践インターンシップは、次のようなねらいで実施しています。

- ①『自己課題』解決の方策を模索する。
- ②教員として働くイメージをふくらませる。
- ③教員として問われる資質を自覚する。



○「自己課題」とは？

岡山大学では、教職を目指す学生が実践的指導力を身につけていくことができるように、積み上げ方式による教育実習を各学年で実施しています。

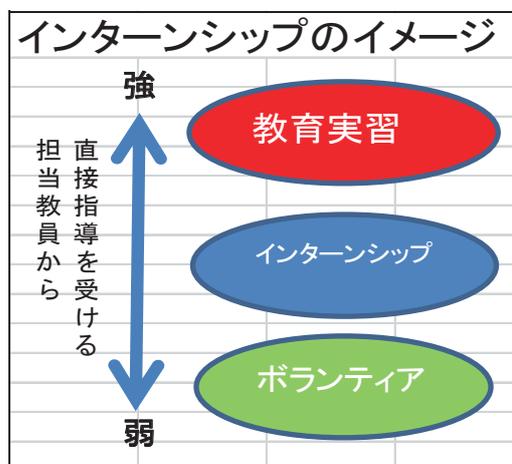
教職実践インターンシップを行う学生は、3年次に附属学校園で4週間の教育実習(主免実習)を経験しています。

実習後のアンケート結果を見ると、学生たちは、この教育実習を通して「教員になりたい」という気持ちを高めると同時に、教職に就くための自己課題を見出していることが分かります。岡山大学では、自己目標と自己課題を明らかにできるよう、教育実践力を構成する4つの力(学習指導力・生徒指導力・コーディネート力・マネジメント力)についての指標を示しており、自らの実践を振り返りながら自分が教職に就く上で解決すべきこととして見出した課題が「自己課題」になります。

○学生が得意分野を伸ばし、苦手分野を克服するために

大学では、学校現場において幼児・児童・生徒の指導や支援をされている先生方と協働することが学生にとって最も実践的な学びになり、先生方と一緒に行動したり一部の仕事を任せられたりすることで学生が自信を深めていくことができると考えています。

教職実践インターンシップでは、自己課題に関わる内容を中心とした教育活動全般（実地授業、授業補助、授業準備・片付け、児童生徒対応、給食指導、学級活動に関する指導、部活指導、下校指導等）を経験させていただければと思います。そのような機会を与えていただくことで、学生は得意分野を伸ばしたり、苦手分野を克服したりしながら、実践的指導力を高めていくことができます。



■学生を受け入れの際、具体的にお願いしたいこと■

日々の多忙な業務の中、大変恐縮いたしますが、次の項目についてご理解いただき、学生への対応につきましてご協力をお願いいたします。

○出勤簿の押印（毎回：学生が所持している名札の裏面）

○活動の打ち合わせ（初回：日程の調整）

学生は5月～9月の期間で、それぞれの協力校園で活動することになっています。

1回の時間数や曜日を含め日程につきましては、活動開始日に、可能な範囲で打ち合わせをお願いいたします。*

「活動計画」：計40時間以上

第1回：5月15日(月)、5月16日(火)、5月18日(木)、5月19日(金)の1日（終日）

第2回目以降：4時間以上を8回以上、6週以上 各自の計画に基づいて実施

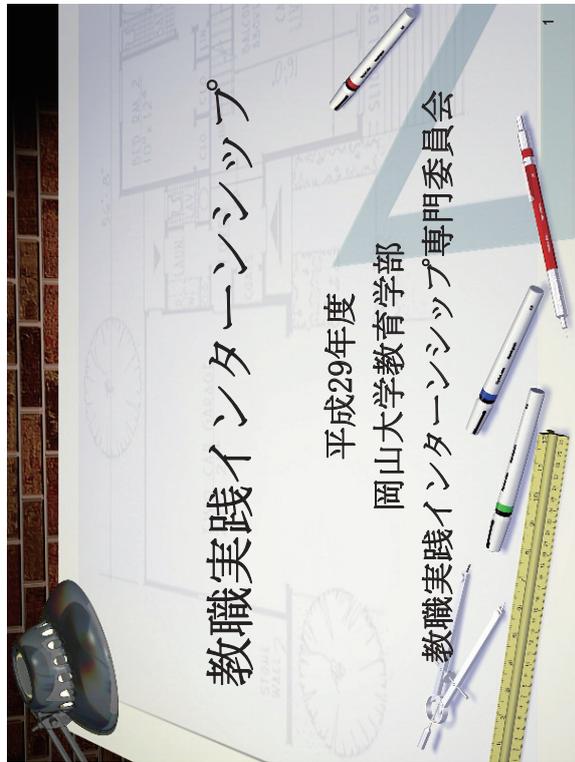
○不測の事態への対応

欠席しているのに連絡がない等の問題が生じた場合、お手数をおかけいたしますが、必ずご連絡くださいますようお願いいたします。

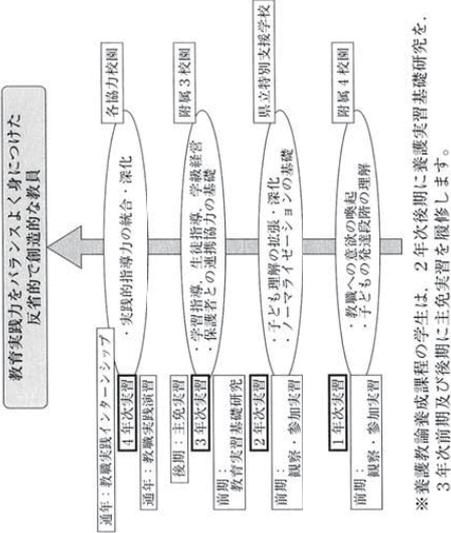
*学校行事や課外活動などそれぞれの協力校園の事情により、時間数や曜日の変更など、適宜調整してください。

以上、よろしく願いいたします。

なお、ご不明の点がございましたらお手数をおかけいたしますが、本学の担当教員もしくは本学部教務学生係（担当：坂本 086-251-7600）までご連絡いただきますようお願いいたします。



岡山大学教育学部
「教育実習」・「教職実践演習」・「教職実践インターンシップ」



1～2年次の実習
「教育実習 I」

- 1年次
 - ・附属4校園 (小学校・中学校・特別支援学校・幼稚園) での**観察・参加実習**
 - ・合計**4日間**体験
 - 2年次
 - ・県立特別支援学校 (県立岡山盲学校, 岡山聾学校, 岡山支援学校, 岡山東支援学校, 岡山西支援学校, 岡山南支援学校) の6校のいずれかの学校で,**観察・参加実習**
 - ・連続**2日間**体験
- *特別支援教育の学生は、2年次の観察・参加実習はなし

3年次実習
「教育実習 II」・「教育実習 III」

- 3年次1・2学期
「教育実習 II」
 - ・教育実習基礎研究
- 3年次3・4学期
「教育実習 III」
 - ・附属4校園での**主免実習**



- ・附属小学校 (資料12)
- ・附属中学校 (資料13)
- ・附属幼稚園 (資料14)
- ・附属特別支援学校 (資料15)
- ・養護実習 (資料16)

4 年次実習
「教職実践演習」・「教職実践インターンシップ」

- 4 年次通年
「教職実践演習」 (必修)
- 4 年次1・2学期 「教職実践インターンシップⅠ」 (必修)
各協力校園 9 回以上、7 週以上、40 時間以上活動
- 4 年次3・4学期 「教職実践インターンシップⅡ」 (選択)
I と同じ各協力校園40時間以上 長期間活動

岡山大学教育学部
「教職実践インターンシップ」とは？

- ・ **教育実践力を構成する4つの力** (学習指導力・生徒指導力・コーディネート力・マネジメント力) の形成状況を確認することを目的とするもので、
- ・ 苦手分野の克服、及び得意分野の伸長を図るために、大学で実施される「**教職実践演習**」と関連させながら、
- ・ 学校現場での**フィールドワーク**として実施するものである。

目標

- ・ 教育実践力を構成する4つの力をバランスよく形成しているかどうかを最終確認し、**実践的指導力を身に付けること**
- ・ 教育現場での教育活動全般に取り組む中で、**自己課題の確認、及び課題解決の方法等について学ぶこと**

自己課題とは

- ・ 自らの実践を振り返りながら自分が教職に就く上で解決すべきことととして見出した課題
- ・ 教職実践インターンシップで、学生は自己課題に関わる内容を中心とした教育活動全般への参加によって、自己課題の確認及び課題解決の方法を学び、実践的指導力を高める。

「4つの力」とは？

学習指導力	生徒指導力	コーディネート力	マネジメント力
<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況の把握力 ・授業設計力 ・授業実践力 ・授業の分析・省察力 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達の特徴を理解する力 ・子どもの生活の美観を理解する力 ・コミュニケーション力 ・学校・学級での生活を指導する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習生同士で協同する力 ・実習校の教職員とつながる力 ・協力者・連携機関を理解する力 ・保護者・地域とつながる力 	<ul style="list-style-type: none"> ・セルフマネジメント力 ・専門職マネジメント力 ・学級・学年マネジメント力 ・学校マネジメントを理解する力

岡山大学教育学部では

平成18年度に教員養成学部にて特化したことを契機に、実践的指導力を身につけた教員養成のために、**教育実習・体験的授業科目を軸（コア）にした「教員養成コア・カリキュラム」を開発。**

「教員養成コア・カリキュラム」では、**理論と実践とを往還し、漸次、融合**を図りながら、教育実践力を形成できるように授業科目や教育実習を配置。

9

「教職実践演習」とは？

平成18年の中央教育審議会の答申に基づいて、**平成22年度入学者から、教員免許の取得に**

必修として課された授業科目

- ・履修することで、2単位を修得
- ・通例は4年次後期（本学部では3・4学期）

* **岡山大学教育学部では、4年次通年で、15回の授業を設定**

10

岡山大学教育学部 教職実践演習

○授業形態

4つの力それぞれの領域の専門教員による

全体指導、クラス別指導、担当校園別指導を行う形を基本（資料5）

○授業担当者

教科に関する科目（教科専門）と教職に関する科目（教科教育）の担当教員が、共同して指導することを基本

○授業の概要・目標

・教員養成コア・カリキュラムが目標とする「教育実践力」を構成する4つの力それぞれについて、

・「**教職実践インターンシップ**」における学校現場での実体験と関連させながら、

・**ワークシヨップ、演習、発表**などさまざまな形態で、二者指導、クラス別指導、協力校園別指導を織り交ぜながら授業を行う。

→ より高い「教育実践力」の養成を目指す。

11

平成29年度
「教職実践演習」・「教職実践インターンシップ」

対象

主免実習を履修・修得した4年次生

○教職実践インターンシップ協力校園（資料6）

平成29年5月11日現在

- ・小学校 17校（173人）
- ・中学校 12校（78人）
- ・幼稚園 2園（15人）
- ・特別支援学校 2校（14人）

※新庄村： 小学校1校・中学校1校（11人）

12

平成29年度
「教職実践演習」・「教職実践インターンシップ」

形式

- 「教職実践演習」(必修)
4年次通年
(3年次3学期10月～11月の主免実習との連続性)
(教育現場でのインターンシップと運動)



大学で教えられる「理論」と
教育現場で行われる「実践」とを 往還

- 「教職実践インターンシップ I」(必修)
4年次1・2学期
- 「教職実践インターンシップ II」(選択)
4年次3・4学期

13

活動期間等

○教職実践インターンシップ I (1・2学期必修)

- ・期間：5月～7月 (*副免実習等のため一部9月まで)
- ・第1回 5月15日(月)・16日(火)・18日(木)・19日(金)のうち1日 8:30～17:00
- ・第2回目以降：4時間以上を8回以上、6週以上
- ※合計 9回以上、7週以上、40時間以上 各自の計画に基づいて実施

標準	第1週 8時間	第2週 4時間	第3週 4時間	第4週 4時間	第5週 4時間	第6週 4時間	第7週 4時間	第8週 4時間	第9週 4時間	計 40時間
パリエーション1	8	4	4	4	4+4	4	4+4	—	—	40時間
パリエーション2	8	4	4+8	4	4	4	4	4	—	44時間
パリエーション3	8	8	8	8	8	4+4	8	8	8	72時間

※パリエーション2は、協力校園から要請のあった運動会、課外活動(宿泊を伴う課外活動を含む)等に参加した場合は、インターンシップ II の時間数としてカウントする。
※40時間を超えた場合は、インターンシップ II の時間数としてカウントする。

14

○教職実践インターンシップ II (3・4学期選択)

- ・期間：3・4学期：10月～12月
- ・対象：希望する学生
大学の指導教員と協力校園の担当教員に相談の上
9月中旬「活動計画書」を個別に提出
- ・活動時間：週1回程度
1/2日, 1/4日, 1日程度
Iと同じ協力校園で長期間実施

*他の協力校園で行う場合：
ボランティア活動としての実施

15

活動時間数の確認(出勤簿)

○大学側で用意した名札(裏面が出勤簿)

- ・学生：毎回退出時、名札裏面の出勤簿に日時及び時間数を記入
- ・実習担当者による押印(協力校園のインターンシップご担当の先生により、押印して頂きますようお願い致します。)



- 活動日：全出席が原則
名札の出勤印が7週以上、9回以上あり
40時間をクリアしていること



16

成績評価・修得単位

○成績評価

協力学校園において活動の実施確認をした出勤簿に基づき

↓
大学の指導教員が「時間数確認表」にて確認

↓
学部で修了判定を行います

○修得単位

- ・教職実践インターンシップⅠ：1単位
- ・教職実践インターンシップⅡ：1単位

17

活動内容

自己課題に関わる
内容を中心とした

教育活動全般



- ・実地授業
- ・授業補助
- ・授業準備・片付け
- ・児童・生徒対応
- ・給食指導
- ・学級活動に関する指導
- ・部活指導
- ・下校指導
など

○学級配当

- ・児童生徒理解に基づいたより実践的な学級経営、生徒指導、授業の在り方を学ぶ

- ・養護教諭養成課程においては、学級配当または保健室担当

○実地授業

- ・協力学校園の教員の了解を得て、学生が授業計画や準備等に主体的に取り組み、実施する。
 - ・共同立案授業
- 学習指導力の向上

可能な範囲で協力
お願い致します

18

実施 第一日目の活動等 (お願い)

第1回 5月15日(月)・16(火)・18日(木)・19日(金)
のうち1日 8:30～17:00

- オリエンテーション (学校概要説明、配当学級における参画、今後の計画、留意事項に関する説明など)

- その他 (協力校園に基づいて)

- 6月以降の「活動計画」

- 出勤簿 (名札) への押印

- 教職実践インターンシップで学生をご指導いただく先生方へ (資料4)

19

活動を振りかえる：日誌

帰宅後：

体験内容及び感想等を「日誌」に記入。

- ・各学生が用意したノート
 - ・毎回、協力校園に持参
 - ・日誌の最初に自己課題を記入
- 活動前：今回の目標
活動後：主な活動内容、省察

※協力校園の先生方に求められた場合には
提出致します。

20

平成29年度

「教職実践インターンシップ」事前指導

平成29年4月26日(水) (資料2)

16:20～

- ・ 校 園 別 事 前 指 導
- ・ 全 体 事 前 指 導

17:30～18:30

- ・ 岡 山 県 教 育 委 員 会 義 務 教 育 課 長 に よ る 講 話

岡山大学教育学部 連絡先

○教務学生係 (資料1 参照)

担当：坂本泰彦

・ 電話番号 086-251-7600

・ メールアドレス sakamoto-y1@adm.okayama-u.ac.jp

○大学側の担当教員 (資料7 参照)

岡大教育 インターンシップスケジュール表

H29	小学校行事関係	中学校行事関係	理科	理科	数学	音楽	音楽	保体	保体	保体	保体	保体	保体	活動人数	宿泊人数	勝山→新庄 (9:55勝山駅) 送迎人数	新庄→勝山 (17:25勝山発) 送迎人数
			女	男	男	女	女	男	女	女	女	男					
5月	15(月)	顔合わせ会、中学校わらび探り	オリエ	オリエ				小	小					6	6	2	0
	16(火)	田植え(未定)			オリエ			小	小	オリエ	オリエ	オリエ	オリエ	7	3	0	2
	17(水)	職員研修				中	中			小	小	小	小	5	5	5	0
	18(木)	クラブ活動(6)				(朝帰園)	中			中	小	小	小	5	2	1	3(+朝1)
	19(金)				学年別陸上競技会オリエンテーション							小	小	2	0	0	2
	20(土)													0	0	0	0
	21(日)													0	0	0	0
	22(月)	体カテスト												0	0	0	0
	23(火)													0	0	0	0
	24(水)	職員研修												0	0	0	0
	25(木)	小中合同プール掃除	小					小	小	小				4	4	4	1
	26(金)	演劇鑑賞会	小					小	小	小				4	0	0	4
	27(土)													0	0	0	0
	28(日)													0	0	0	0
	29(月)													0	0	0	0
	30(火)	地域学校支援本部に関する講義(平本さん)		中	中					中	中	中	中	6	6	6	0
	31(水)	スポーツチャレンジ		中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	9	6	0(直接会場)	0(勝山直帰)
6月	1(木)	委員会活動(6)	小			(朝帰園)	中	中					小	5	1	1	3(+朝1)
	2(金)	スクールコンサート14:30	中											1	0	0	1
	3(土)													0	0	0	0
	4(日)													0	0	0	0
	5(月)													0	0	0	0
	6(火)	開成高校交流(~8日)		小	小									2	2	2	0
	7(水)	地域学校支援本部に関する講義(平本さん)	小	小	小	小	小					中	中	6	4	4	2
	8(木)	クラブ活動(6)				小	小				小		中	5	3	1	2
	9(金)	あいさつ運動7:30~				小					小		中	3	0	0	3
	10(土)													0	0	0	0
	11(日)													0	0	0	0
	12(月)											中		2	2	2	0
	13(火)	洪川海事研修		中	中	中						中		4	3	2	1
	14(水)	洪川海事研修		中	中	中								3	0	0	3
	15(木)	洪川海事研修												0	0	0	0
	16(金)												中	1	1	1	0
	17(土)													1	0	0	0
	18(日)													0	0	0	0
	19(月)													2	2	2	0
	20(火)	授業研究会(岡大)								小	小			2	0	0	2
	21(水)													1	1	1	0
	22(木)													2	2	1	0
	23(金)	放課後質問教室				小								2	0	0	2
	24(土)	参観日・救急法												0	0	0	0
	25(日)													0	0	0	0
	26(月)	振替休業日												0	0	0	0
	27(火)					小	小							2	2	2	2
	28(水)	小中研(h-QU)				小	小							3	1	1	2
	29(木)	クラブ活動(6)		中				中			小	小		4	3	3	1
	30(金)			中				中				小	小	4	1	1	4
7月	1(土)													1	0	0	0
	2(日)													0	0	0	0
	3(月)	非行防止ネットモラル教室③								中				1	1	1	0
	4(火)									中				1	0	0	1
	5(水)												小	1	1	1	0
	6(木)			中							中		中	4	3	3	1
	7(金)			中							中		中	3	0	0	3
	8(土)													0	0	0	0
	9(日)													0	0	0	0
	10(月)	あいさつ運動7:30~												2	2	2	0
	11(火)			中	中									4	2	2	2
	12(水)			中	中									2	0	0	2
	13(木)	校内水泳記録会												0	0	0	0
9月	8(金)	新庄村運動会事前準備	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11	11	3	0
	10(日)	新庄村運動会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11	0	0	3

岡山大学インターンシップを通じて

中学生の感想



- ・ 《1年》
 たまに話をしたり、面白い話などをして楽しかった。
 ・ 野球をしたり、意外と楽しかった。
 ・ 学校にいるなーと思った。少しいやだった。
 ・ はじめは不安だったけど岡大生から話しかけてくださったので嬉しかったです。
 ・ たまに話をしたけど少し話しくかった。あまり楽しいとは思えなかった。
 ・ 人数が増えた感じに思う。
- ・ 《2年》
 ・ 先生が増えた感じで緊張しました。親しくなった先生はほとんどおらずずっといる先生が少なかった。先生とは思えず、話しかけにくかった。楽しかった。
 ・ 給食の時、人数が増えたり賑やかになったのでよかったです。部での人数も増えたので良かったです。
 ・ 先生でした。あまり楽しくなかった。
- ・ 《3年》
 ・ 1学期の間お世話になりました。僕にとっちは大学生は先生という感じではなかったですね。その分気軽に話しやすいです。ありがとうございます。がんばってください。
 ・ とても話しやすく話も合わせてくれるのでとても良かったです。運動もできるし、話も盛り上がりだったのでぜひまたお会いしたいです。運動会も盛り上げてくれて本当に嬉しかったです。めっちゃくちゃ楽しかったし、ほんとにほんとにまた会いたいです。ありがとうございます。
 ・ 一緒に遊んだり勉強できてとても楽しかったです。将来のこととかについて話ができ良かったです。また、新庄に来てください。
 ・ とてもおもしろく周りを笑顔にさせてくれる存在でした。休み時間に話すのがとても楽しかったです。
 ・ 部活の時に試合の相手になつてくれて楽しかったです。勉強の教え方が上手だったと思います。10月の3連休のときに祭があるので来てみてください。
 ・ 勉強法とか教えてくれる優しい先生で、人生の先輩でした。私たちが勉強が高校生活を上手くやっていたいから分からなかったけど、「大丈夫」「楽しいよ」とかボジティブに教えてくれるで助かりました。中学一、二年生も心配なことがあると思うのでまた来ててください。
 ・ 憧れのような存在でした。特に勉強を教えてくださいました。話をしてくださいましたことに対してそう思いました。また、交流会の時は、勉強の方法などを教えてくださいました。とても良かったです。
 ・ 岡大生の皆さんと話す機会はなかなかないので、新庄中に来てくださりお話や色々なことができたのはとてもいい経験になりました。

- ・ 岡大生は僕にとっって勇気を持たせてくれる大切な存在でした。最後の運動会で岡大生が応援してくれて本当に嬉しかったです。

いろいろな話をして聴いてくださる存在でいつも楽しく面白かったです。岡大生の方達がいると学校が明るく賑やかになって自然と笑顔になりました。何人かの人に「帰りの会」などでももらったこれからの話など「確かなな」と思うこともあり「そっなんだ・・・」と思うこともあり、とても役に立つお話でした。短い時間でしたがありがとうございます。



《その他》

- ・ トランペットの授業で聞かせてあげたときの子ども達の輝く目を見て、改めて音楽の力、素晴らしさを実感しました。教職員になる前にここにきて皆さんと触れ合えて様々な体験ができて本当に良かったです。ありがとうございます。
- ・ 子ども達と一緒に歩いた環境とは違うけれど、懐かしい言葉をかけていただくことが多かったです。私が育った環境とは違うけれども、懐かしい気持ちになれる村だと感じました。
- ・ 今回初めての新庄村でのインターンシップということで私たち岡大生は大変貴重な体験をさせていただきました。来年から後輩達が新庄村で勉強させて頂くことになると思います。今後とも岡大生をよろしくお願ひします。
- ・ 運動会で大学生用のテントを用意して頂いたにもかかわらず有効に活用できずに申し訳ありませんでした。
- ・ 私は最後の卒業論文で新庄小中関係のことを研究しようと思いましたが、そのときはよろしくお願ひします。人とのつながりを感じられて、自分自身をもっと大切にしたいかなと思います。ありがとうございます。
- ・ 新庄村のインターンシップで、地域・学校・家族が繋がるとはどのようなことかというところがわかりました。教員の方や先生方、子ども達すべての人たちが持つ持たれつつで良い関係を築いていると思いました。でも、新庄村だからというのがあると思います。今後は、それが村全体にどのような影響を及ぼすかを考えなければならぬと感じました。
- ・ 経験不足で社会のことをわかっていない学生をこんなにも温かく迎えてくださるここまでの学びのあふれる実践をさせて頂き感謝の気持ちがあります。ここでの学びを今後の自分自身の生活に十分生かしていきたいと思ひました。どのようにならなりたいかわかりませんが、新庄村のように人との結びつきを生きていきたいです。新庄村が大好きです。
- ・ 新庄小中学校にお邪魔させて頂き小規模校が抱える問題を知ると同時に純粋な子ども達と出会え、とても勉強になりました。
- ・ 短い期間でしたが、いろいろな経験ができました。

平成 29 年度 教職実践インターンシップ

についてのアンケート【学校教育教員養成課程用】

この調査は、教職実践インターンシップにおける皆さんの成果や課題等を把握し、今後のカリキュラム改善に役立てようとするものです。調査は無記名式で、得られた結果は全て統計的に処理し、個々の情報を外部にもらすことは一切ありません。また、アンケートの結果は、研究報告書や論文、学会発表等で使用する可能性もありますが、あなた個人にご迷惑をかけることはありません。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。なお、回答に正解・不正解といったことはありませんので、他の人と相談せず、思ったとおりに率直にお答えください。

設問の“子ども”は、自らが専門とする校種の子ども(幼児・児童・生徒)に置き換えて回答して下さい！！

回答はすべて、当てはまる番号または語句に○をつけてください(それぞれいくつ○をするかについては項目毎に記載してありますので、それを確認して回答して下さい)。

性別【 男 ・ 女 】

課程 ・ コース【 小学校 ・ 中学校 ・ 特別支援 ・ 幼児 ・ 養護 】

専修【
】

インターンシップ校の地区【 岡山市 ・ 倉敷市 ・ 赤磐市 ・ 総社市 ・ 新庄村 】

【 I 】教職実践インターンシップが始まる前のことについてお聞きします。

問1. “①あなたが自己課題として考えていた力、②最も自信があり、さらに伸ばしたいと考えていた力”は、以下の4つの力のうちどれになりますか？『教職実践ポートフォリオ』に示している内容を思い浮かべて、それぞれ最もよく当てはまるものを一つ選んで下さい。養護教諭養成課程の方は(養護)の選択肢から選んでください。

<①自己課題> 1. 学習指導力 2. 生徒指導力 3. コーディネート力 4. マネジメント力

<②最も自信あり> 1. 学習指導力 2. 生徒指導力 3. コーディネート力 4. マネジメント力

【 II 】教職実践インターンシップの履修状況や取り組んだ活動内容などについてお聞きします。

問1. 「教職実践インターンシップ」は前期必修(インターンシップⅠ:1単位)と後期選択(インターンシップⅡ:1単位)で構成し、Ⅰについては40時間(7週以上、9日以上)、Ⅱについては40時間を目安に実施しました。あなたの履修状況について、次のうち、当てはまるものを一つ選び、数字に○をつけて下さい。また、トータルの活動時間(およそ)を書いて下さい(Ⅱを履修中の人は予定も含めてください)。

1. 必修のⅠ(1単位)のみ履修 およそ()時間

2. 必修のⅠ(1単位)と選択のⅡ(1単位)を履修 ⅠとⅡを合わせておよそ()時間

問2. 問1で「1」と答えた方(前期必修のみ履修した方)にお聞きします。選択のⅡを履修しなかった理由として以下の中からあなたの考えに最も近いものを一つ選び、数字に○をつけて下さい。また、該当する理由が選択肢にない場合、[その他の理由:]内に記述して下さい。

1. 必修ではないから 2. 卒業論文や就職活動などで忙しかったから 3. 教職に就くつもりがないから

4. 前期必修が期待していたものと違っていたから 5. 学校支援ボランティアなど学校に行く機会を別に持っているから

[その他の理由:]

問3. 問1でおよその活動時間が50時間を超えた方にお聞きします。初回8時間を除いた活動について、活動時間が多くなった主な理由として当てはまるものをすべてを選んで下さい。また、該当する理由が選択肢にない場合、[その他の理由:]内に記述して下さい。

1. 学校からの要望で、週1回の活動が4時間を越えて参加 2. 自分の希望で、週1回の活動が4時間を越えて参加

3. 学校からの要望で、週2回以上の活動に参加 4. 自分の希望で、週2回以上の活動に参加

[その他の理由:]

問4. 教職実践インターンシップにおいて、以下のような事柄について、経験したか、経験していないかをそれぞれお答え下さい。経験していない場合には、経験したかったかどうか(経験したかった方は「2」にも○)、経験した場合にはその活動を決めた状況(学校または自分のどちらの希望であったか)についても最も近いものを一つ選び、数字に○をつけて下さい。

	経験して いない	経験 したかった	経験した	自分で 希望した	学校からの 指示	学校と相談 して決めた
1. 授業（保育）におけるTTとしての補助	1	2	3	4	5	6
2. 授業（保育）におけるメイン指導	1	2	3	4	5	6
3. 特別支援を要する子どもに対する個別支援や補助	1	2	3	4	5	6
4. 別室登校をしている子どもに対する個別支援や補助	1	2	3	4	5	6
5. 児童会・生徒会活動の企画・運営や補助	1	2	3	4	5	6
6. 保護者対応の補助や様子の観察	1	2	3	4	5	6
7. 職員会議への参加	1	2	3	4	5	6
8. 校務分掌の補助	1	2	3	4	5	6
9. 学級通信の作成や補助	1	2	3	4	5	6
10. 学級掲示物の作成や補助	1	2	3	4	5	6
11. テストの採点や補助	1	2	3	4	5	6
12. 修学旅行等の校外行事の引率補助	1	2	3	4	5	6
13. 1日または半日の代理担任	1	2	3	4	5	6
14. 放課後学習指導や補助	1	2	3	4	5	6
15. 教材研究	1	2	3	4	5	6
16. 朝の会・帰りの会の進行や補助	1	2	3	4	5	6
17. 給食指導や補助	1	2	3	4	5	6
18. 清掃指導や補助	1	2	3	4	5	6
19. 運動会・文化祭等の学校行事の補助	1	2	3	4	5	6
20. 校内研究会への参加	1	2	3	4	5	6
21. 部活動指導や補助	1	2	3	4	5	6
22. 教室に入れない生徒への対応や補助	1	2	3	4	5	6
23. 子どもの問題行動の指導や補助	1	2	3	4	5	6
24. 特別活動の企画・運営や補助	1	2	3	4	5	6
25. 休憩時間中の校内巡視や補助	1	2	3	4	5	6
26. 宿題の作成や補助	1	2	3	4	5	6
27. 提出物の点検や補助	1	2	3	4	5	6

問5. 毎回の活動日の最初に、インターンシップ先の担当の先生との打ち合わせ(例:その日の活動内容や注意事項など)をどの程度行いましたか？

1. 全く行っていない 2. 何回か行った 3. ほぼ毎回行った 4. 毎回行った

問6. 毎回の活動日の終わりに、インターンシップ先の担当の先生とその日の反省や振り返りをどの程度行いましたか？

1. 全く行っていない 2. 何回か行った 3. ほぼ毎回行った 4. 毎回行った

【Ⅲ】教職実践インターンシップを経験したことによる教育実践力の向上等についてお聞きします。

問1. 率直にお聞きします。教職実践インターンシップは充実していましたか？

1. 非常に苦痛だった 2. どちらかと言えば苦痛だった 3. どちらとも言えない
4. 充実していた 5. 非常に充実していた

問2. 以下の項目は、皆さんが教師になる上で身につけて欲しい教育実践力を、教職実践ポートフォリオに基づいて並べたものです。以下の1～16の力が教職実践インターンシップを通してどの程度伸びたと思いますか？それぞれ5段階で評定し、当てはまる数字の一つに○をつけて下さい。

	全く伸びて いない	あまり伸びて いない	どちらとも 言えない	まあ伸びた	非常に 伸びた	
学習指導力	1. 子どものレディネスや学習状況を把握すること	1	2	3	4	5
	2. 学習指導要領や教育課程をふまえて、学習指導案を作成すること	1	2	3	4	5
	3. 様々な指導法を活用して、子どもの学習状況に応じた授業を行うこと	1	2	3	4	5
	4. 自他の授業実践を分析し、授業の改善点を発見すること	1	2	3	4	5
生徒指導力	5. 子どもの発達的特徴を理解すること	1	2	3	4	5
	6. 子どもの生活の実態を理解すること	1	2	3	4	5
	7. 子どもと共感的にコミュニケーションすることや、子ども同士のコミュニケーションづくりを指導すること	1	2	3	4	5
	8. 子ども理解に基づき、学校や学級で子どもが楽しく生活できるよう指導すること	1	2	3	4	5
コーディネート力	9. 実習生同士で協働して学習指導や学級経営等に取り組むこと	1	2	3	4	5
	10. 実習校の教職員とコミュニケーションをとり、連携すること	1	2	3	4	5
	11. 学校に関わる協力者や専門機関と連携すること	1	2	3	4	5
	12. 保護者や地域の人とコミュニケーションをとり連携すること	1	2	3	4	5
マネジメント力	13. 自分で自分を律しつつ、意欲と課題意識をもって教育実践に取り組むこと	1	2	3	4	5
	14. 教員の使命や職務について理解し、専門職として求められる資質・能力等を高めていくこと	1	2	3	4	5
	15. 学級・学年目標の実現に向けて、子どもの集団に働きかけること	1	2	3	4	5
	16. 学校教育目標の達成に向けて、学校組織の活動内容や運営について理解すること	1	2	3	4	5

問3. 教職実践インターンシップの期間中、あなたの教育実践力が特に伸びたと感じるエピソードを具体的に記述して下さい。

問4. 問3で記述したエピソードは「4つの力」のどの力を伸ばすことにつながったと考えていますか？（複数回答可）

1. 学習指導力 2. 生徒指導力 3. コーディネート力 4. マネジメント力

問5. 教職実践インターンシップは、4年次に通年の「教職実践演習」と連動して開講し、大学での学習と学校現場での実践経験を有機的につなげ、皆さんの自己課題の解決や教育実践力をさらに向上させることをねらいとしています。

①. 「教職実践演習」で学んだことが「教職実践インターンシップ」で活かされたことがどの程度ありましたか？

1. 全くなかった 2. あまりなかった 3. どちらとも言えない 4. まああった 5. とてもあった

②. 「教職実践インターンシップ」で経験したことが「教職実践演習」での学習に活かされたことがどの程度ありましたか？

1. 全くなかった 2. あまりなかった 3. どちらとも言えない 4. まああった 5. とてもあった

③. あなたにとって「教職実践インターンシップ」と「教職実践演習」は有機的につながるカリキュラムでしたか？

1. はい 2. いいえ

④. ③で“2.いいえ”と答えた人にお聞きします。その理由を具体的に記述して下さい。

【IV】あなた自身についてお聞きします。

問1. 【※小学校教育コース・中学校教育コースの方のみお答え下さい。その他のコースの方は問3に進んで下さい。】

今の段階で、以下の事柄にどのくらい自信をもっていますか？それぞれ5段階で答え、当てはまる数字の一つに○をつけて下さい。

	全く自信がない	あまり自信がない	どちらとも言えない	まあ自信がある	とても自信がある
1.教科の専門知識をもつこと	1	2	3	4	5
2.子どもたちの発達段階や学習状況を考慮して一時間の学習指導計画を立てること	1	2	3	4	5
3.教科内容の系統性や原理を考慮して一時間の学習指導計画を立てること	1	2	3	4	5
4.子どもたちの発達段階や学習状況を考慮して単元計画を立てること	1	2	3	4	5
5.教科内容の系統性や原理を考慮して単元計画を立てること	1	2	3	4	5
6.子どもたちの発達段階や学習状況を考慮して年間の授業計画を立てること	1	2	3	4	5
7.教科内容の系統性や原理を考慮して年間の授業計画を立てること	1	2	3	4	5
8.単元計画を見通して一時間の授業の教材や指導案を作成すること	1	2	3	4	5
9.年間の授業計画を見通して一時間の授業の教材や指導案を作成すること	1	2	3	4	5

問2. あなたの所属する専修はどのように決まったものですか。当てはまる数字の一つに○をつけて下さい。

1. 第1希望の専修 2. 第2希望の専修 3. 第3希望以下の専修 4. 転専修した専修
5. AO入試で志望した専修 6. その他[]

問3. 卒業後の進路状況についてお聞きします。卒業後の進路(予定も含む)について以下の中から当てはまるものを1つ選び、数字の一つに○をつけて下さい。また、「5. その他」を選んだ方は具体的にお書き下さい。

1. 教職(保育士・養護教諭を含む) 2. 公務員 3. 民間企業 4. 大学院進学 5. その他[]

質問は以上です。ご協力ありがとうございました！！

平成 29 年度 教職実践インターンシップについてのアンケート

【養護教諭養成課程用】

この調査は、教職実践インターンシップにおける皆さんの成果や課題等を把握し、今後のカリキュラム改善に役立てようとするものです。調査は無記名式で、得られた結果は全て統計的に処理し、個々の情報を外部にもらすことは一切ありません。また、アンケートの結果は、研究報告書や論文、学会発表等で使用する可能性もありますが、あなた個人にご迷惑をかけることはありません。ご理解とご協力をよろしくお願いします。なお、回答に正解・不正解といったことはありませんので、他の人と相談せず、思ったとおりに率直にお答えください。

設問の“子ども”は、自らが専門とする校種の子ども(幼児・児童・生徒)に置き換えて回答して下さい！！

回答はすべて、当てはまる番号または語句に○をつけてください(それぞれいくつ○をするかについては項目毎に記載してありますので、それを確認して回答して下さい)。

インターンシップ校の地区【岡山市・倉敷市・赤磐市・総社市・新庄村】

インターンシップ校の校種【小学校・中学校・その他()】

【Ⅰ】教職実践インターンシップが始まる前のことについてお聞きします。

問1. “①あなたが自己課題として考えていた力、②最も自信があり、さらに伸ばしたいと考えていた力”は、以下の4つの力のうちどれになりますか？『教職実践ポートフォリオ』に示している内容を思い浮かべて、それぞれ最もよく当てはまるものを一つ選んで下さい。

<①自己課題> 1. 保健管理力 2. 健康教育力 3. コーディネート力 4. マネジメント力

<②最も自信あり> 1. 保健管理力 2. 健康教育力 3. コーディネート力 4. マネジメント力

【Ⅱ】教職実践インターンシップの履修状況や取り組んだ活動内容などについてお聞きします。

問1. 「教職実践インターンシップ」は前期必修(インターンシップⅠ:1単位)と後期選択(インターンシップⅡ:1単位)で構成し、Ⅰについては40時間(7週以上、9日以上)、Ⅱについては40時間を目安に実施しました。あなたの履修状況について、次のうち、当てはまるものを一つ選び、数字に○をつけて下さい。また、トータルの活動時間(およそ)を書いて下さい(Ⅱを履修中の人は予定も含めてください)。

1. 必修のⅠ(1単位)のみ履修 およそ()時間

2. 必修のⅠ(1単位)と選択のⅡ(1単位)を履修 ⅠとⅡを合わせておよそ()時間

問2. 問1で「1」と答えた方(前期必修のみ履修した方)にお聞きします。選択のⅡを履修しなかった理由として以下の中からあなたの考えに最も近いものを一つ選び、数字に○をつけて下さい。また、該当する理由が選択肢にない場合、[その他の理由:]内に記述して下さい。

1. 必修ではないから 2. 卒業論文や就職活動などで忙しかったから 3. 教職に就くつもりがないから

4. 前期必修が期待していたものと違っていたから 5. 学校支援ボランティアなど学校に行く機会を別に持っているから

[その他の理由:]

問3. 問1でおよその活動時間が50時間を超えた方にお聞きします。初回8時間を除いた活動について、活動時間が多くなった主な理由として当てはまるものすべてを選んで下さい。また、該当する理由が選択肢にない場合、[その他の理由:]内に記述して下さい。

1. 学校からの要望で、週1回の活動が4時間を越えて参加 2. 自分の希望で、週1回の活動が4時間を越えて参加

3. 学校からの要望で、週2回以上の活動に参加 4. 自分の希望で、週2回以上の活動に参加

[その他の理由:]

問4. 教職実践インターンシップにおいて、以下のような事柄について、経験したか、経験していないかをそれぞれお答え下さい。経験していない場合には、経験しなかったかどうか(経験しなかった方は「2」にも○)、経験した場合にはその活動を決めた状況(学校または自分のどちらの希望であったか)についても最も近いものを一つ選び、数字に○をつけて下さい。

	経験して いない	経験 しなかった	経験した	自分で 希望した	学校からの 指示	学校と相談 して決めた
1. 保健教育(集団)におけるTTとしての補助	1	2	3	4	5	6
2. 保健教育(集団)におけるメイン指導	1	2	3	4	5	6
3. 特別支援を要する子どもに対する個別支援や補助	1	2	3	4	5	6
4. 別室登校をしている子どもに対する個別支援や補助	1	2	3	4	5	6
5. 児童会・生徒会活動の企画・運営や補助	1	2	3	4	5	6
6. 保護者対応の補助や様子の観察	1	2	3	4	5	6
7. 職員会議への参加	1	2	3	4	5	6
8. 校務分掌の補助	1	2	3	4	5	6
9. 学級通信の作成や補助	1	2	3	4	5	6
10. 学級掲示物の作成や補助	1	2	3	4	5	6
11. テストの採点や補助	1	2	3	4	5	6
12. 修学旅行等の校外行事の引率補助	1	2	3	4	5	6
13. 1日または半日の代理担任	1	2	3	4	5	6
14. 放課後学習指導や補助	1	2	3	4	5	6
15. 教材研究	1	2	3	4	5	6
16. 朝の会・帰りの会の進行や補助	1	2	3	4	5	6
17. 給食指導や補助	1	2	3	4	5	6
18. 清掃指導や補助	1	2	3	4	5	6
19. 運動会・文化祭等の学校行事の補助	1	2	3	4	5	6
20. 校内研究会への参加	1	2	3	4	5	6
21. 部活動指導や補助	1	2	3	4	5	6
22. 教室に入れない生徒への対応や補助	1	2	3	4	5	6
23. 子どもの問題行動の指導や補助	1	2	3	4	5	6
24. 特別活動の企画・運営や補助	1	2	3	4	5	6
25. 休憩時間中の校内巡視や補助	1	2	3	4	5	6
26. 宿題の作成や補助	1	2	3	4	5	6
27. 提出物の点検や補助	1	2	3	4	5	6
28. 救急処置におけるメイン対応	1	2	3	4	5	6
29. 救急処置の補助	1	2	3	4	5	6
30. 個別の保健指導	1	2	3	4	5	6
31. 学校環境測定(補助を含む)	1	2	3	4	5	6
32. 保健室での事務作業(スポーツ振興センターへの書類申請など)	1	2	3	4	5	6
33. 保健室等掲示物の作成	1	2	3	4	5	6
34. 学校保健における外部機関との連携(見学を含む)	1	2	3	4	5	6
35. 保健室経営計画立案に関する事項(見学を含む)	1	2	3	4	5	6
36. 学校保健計画立案に関する事項(見学を含む)	1	2	3	4	5	6

問5. 毎回の活動日の最初に、インターンシップ先の担当の先生との打ち合わせ(例:その日の活動内容や注意事項など)をどの程度行いましたか?
 1. 全く行っていない 2. 何回か行った 3. ほぼ毎回行った 4. 毎回行った

問6. 毎回の活動日の終わりに、インターンシップ先の担当の先生とその日の反省や振り返りをどの程度行いましたか?
 1. 全く行っていない 2. 何回か行った 3. ほぼ毎回行った 4. 毎回行った

【Ⅲ】教職実践インターンシップを経験したことによる教育実践力の向上等についてお聞きします。

問1. 率直にお聞きします。教職実践インターンシップは充実していましたか？

1. 非常に苦痛だった 2. どちらかと言えば苦痛だった 3. どちらとも言えない
4. 充実していた 5. 非常に充実していた

問2. 以下の項目は、皆さんが教師になる上で身につけて欲しい教育実践力を、教職実践ポートフォリオに基づいて並べたものです。以下の1～16の力が教職実践インターンシップを通してどの程度伸びたと思いますか？それぞれ5段階で評定し、当てはまる数字の一つに○をつけて下さい。

	全く伸びて いない	あまり伸びて いない	どちらとも 言えない	まあ伸びた	非常に 伸びた	
保健管理力	1.子どもの発育発達段階や生活背景，学校環境をふまえて，対応に生かすこと	1	2	3	4	5
	2.学校全体の健康実態を具体的に説明すること	1	2	3	4	5
	3.保健室に来室する子どもに対して，常に心と体の両面から対応すること	1	2	3	4	5
	4.緊急度や重症度に応じて判断し，対応すること	1	2	3	4	5
健康教育力	5.子どもが主体的に取り組める保健指導を実施し，その他の教育活動に結びつけること	1	2	3	4	5
	6.自らが記録分析した保健指導を振り返り，次の指導に生かすこと	1	2	3	4	5
	7.子どもの反応から，保健指導を振り返ること	1	2	3	4	5
	8.保健学習に協力すること	1	2	3	4	5
コーディネート力	9.実習生同士で学びを共有し，適切な助言や支援をすること	1	2	3	4	5
	10.協力してもらうための方策について，具体的に説明すること	1	2	3	4	5
	11.実習校における協力者や専門機関等との連携・協力の現状を理解すること	1	2	3	4	5
	12.学校が保護者や地域が連携・協力して行う活動に参加して，多くの人と話すこと	1	2	3	4	5
マネジメント力	13.高い意欲と課題意識を持ち続けること	1	2	3	4	5
	14.養護教諭の専門性を維持研鑽するための方法を説明すること	1	2	3	4	5
	15.保健室経営計画に基づいて活動し，自己の実践をふりかえって評価すること	1	2	3	4	5
	5.学校経営が組織的に行われていることを理解し，報告・連絡・相談しながら組織の一員として活動すること	1	2	3	4	5

問3. 教職実践インターンシップの期間中，あなたの教育実践力が特に伸びたと感じるエピソードを具体的に記述して下さい。

問4. 問3で記述したエピソードは「4つの力」のどの力を伸ばすことにつながったと考えていますか？(複数回答可)

1. 保健管理力 2. 健康教育力 3. コーディネート力 4. マネジメント力

問5. 教職実践インターンシップは、4年次に通年の「教職実践演習」と連動して開講し、大学での学習と学校現場での実践経験を有機的につなげ、皆さんの自己課題の解決や教育実践力をさらに向上させることをねらいとしています。

- ①. 「教職実践演習」で学んだことが「教職実践インターンシップ」で活かしたことがどの程度ありましたか？
 1. 全くなかった 2. あまりなかった 3. どちらとも言えない 4. まああった 5. とてもあった
- ②. 「教職実践インターンシップ」で経験したことが「教職実践演習」での学習に活かしたことがどの程度ありましたか？
 1. 全くなかった 2. あまりなかった 3. どちらとも言えない 4. まああった 5. とてもあった
- ③. あなたにとって「教職実践インターンシップ」と「教職実践演習」は有機的につながるカリキュラムでしたか？
 1. はい 2. いいえ
- ④. ③で“2.いいえ”と答えた人にお聞きします。その理由を具体的に記述して下さい。

【IV】あなた自身についてお聞きします。

問1. 今の段階で、以下の事柄にどのくらい自信をもっていますか？それぞれ5段階で答え、当てはまる数字の一つに○をつけて下さい。

	全く自信がない	あまり自信がない	どちらとも言えない	まあ自信がある	とても自信がある
1. 救急処置の専門知識を持ち、実施すること	1	2	3	4	5
2. 集団に対する保健指導の必要性を認識し、実施すること	1	2	3	4	5
3. 個別の保健指導を行うこと	1	2	3	4	5
4. 子ども達の健康課題に応じた健康相談・健康相談活動を行うこと	1	2	3	4	5
5. 学校教育目標をふまえて、学校保健計画を立案すること	1	2	3	4	5
6. 必要な校内連携を行うこと	1	2	3	4	5
7. 必要な校外連携を行うこと	1	2	3	4	5
8. 養護教諭として、「専門性」を高め続ける努力をすること	1	2	3	4	5
9. 保健室経営計画を立案すること	1	2	3	4	5

問3. 卒業後の進路状況についてお聞きします。卒業後の進路(予定も含む)について以下の中から当てはまるものを1つ選び、数字の一つに○をつけて下さい。また、「5. その他」を選んだ方は具体的にお書き下さい。

1. 教職(保育士・養護教諭を含む) 2. 公務員 3. 民間企業 4. 大学院進学 5. その他 []

質問は以上です。ご協力ありがとうございました！！

3. 卒業生(平成25～28年度卒)へのアンケート調査

岡山大学教育学部では平成25年度より、教職実践演習に連動する形で教職実践インターンシップを導入している。教職実践インターンシップが、卒業後の教員としての資質にどのように影響しているのかを把握する目的で平成25から平成28年度の卒業生 1,068 名を対象にアンケート調査を行った。回答は312名から得られ(回収率 29.2%), 学校教育教員養成課程(小学校教育コース, 中学校教育コース)221名の分析を行った。

1) インターンシップにおける学生の活動経験率

インターンシップ活動内容	経験した	経験の契機			経験しなかった
		自分で希望	学校からの指示	相談	
1. 授業におけるTTとしての補助	67.4	23.6	55.5	21.1	36.1
2. 授業におけるメイン指導	19.5	36.4	30.3	33.3	19.6
3. 特別支援を要する子どもに対する個別支援や補助	40.3	29.2	50.0	20.0	33.3
4. 別室登校をしている子どもに対する個別支援や補助	5.0	0	60.0	40.0	21.3
5. 児童会・生徒会活動の企画・運営や補助	6.3	0	66.7	44.4	11.6
6. 保護者対応の補助や様子の観察	5.0	14.3	57.1	28.6	18.7
7. 職員会議への参加	10.0	0	100	0	14.1
8. 校務分掌の補助	4.6	0	60.0	40.0	12.0
9. 学級通信の作成や補助	3.2	0	75.0	25.0	12.7
10. 学級掲示物の作成や補助	22.3	13.9	72.2	13.9	17.5
11. テストの採点や補助	30.5	23.9	67.4	8.7	15.0
12. 修学旅行等の校外行事の引率補助	8.2	23.1	61.5	15.4	10.9
13. 1日または半日の代理担任	7.3	25.0	58.3	16.7	8.3
14. 放課後学習指導や補助	9.1	41.7	33.3	25.0	10.5
15. 教材研究	15.5	55.6	27.8	16.7	21.0
16. 朝の会・帰りの会の進行や補助	31.4	23.9	50.0	23.9	15.2
17. 給食指導や補助	58.6	20.4	54.1	22.4	17.4
18. 清掃指導や補助	51.4	21.3	52.8	17.8	18.7
19. 運動会・文化祭等の学校行事の補助	36.4	30.5	47.5	22.0	17.9
20. 校内研究会への参加	6.8	38.5	38.5	23.1	13.2
21. 部活動指導や補助	9.1	62.5	12.5	25.0	13.0
22. 教室に入れない生徒への対応や補助	11.4	33.3	16.7	23.6	53.8
23. 子どもの問題行動の指導や補助	23.6	50.0	32.4	17.6	17.3
24. 特別活動の企画・運営や補助	8.2	15.4	76.9	7.7	13.9
25. 休憩時間中の校内巡視や補助	39.7	39.7	42.9	12.7	13.4
26. 宿題の作成や補助	8.2	8.3	75.0	16.7	12.9
27. 提出物の点検や補助	44.5	14.3	62.3	16.9	14.6

(経験しなかったは経験しなかった者における割合)(%)

在校生の調査と同様に「授業におけるTTとしての補助」, 「特別支援を要する子どもに対する個別支

援や補助」,「給食指導や補助」,「清掃指導や補助」「提出物の点検や補助」が高く, 4割以上の卒業生が経験していた。しかし, これらの活動を行なった契機は「学校からの指示」の割合が高く, 自分から希望して経験した割合が高いものは「部活動の指導」,「教材研究」,「子どもの問題行動の指導や補助」であった。また, 経験していない者のうちで経験しなかったとの回答は「教室には入れない生徒への対応や補助」が最も高く, 半数以上の卒業生が希望していた。卒業生が希望して行なった活動や経験しなかったと回答している活動は経験率が高いものばかりではなく, 学生のニーズと活動内容が必ずしも一致していない可能性が考えられた。

2) 教職実践インターンシップ全体の評価

	教員就職	教員以外就職
非常に充実していた	10.0	6.6
充実していた	35.4	32.5
どちらとも言えない	28.5	23.1
どちらかと言えば苦痛だった	21.5	28.6
苦痛だった	4.6	12.8

(%)

教職実践インターンシップ全体の評価を, 現在教員である卒業生と教員以外の就職をした卒業生と比較した。現在教員である卒業生の 45.4%が充実していたと回答しているのに対し, 教員以外の就職をした卒業生では 39.1%と低い割合であった。一方で, 教員以外の就職をした卒業生では 41.4%が苦痛であったと回答しており, 現在教員である卒業生の 26.1%に比べ高い割合であった。その理由として最も多かったのが, 就職活動の時期と重なったというものであった。教職実践インターンシップは4年次の5月から7月を中心に, 9月まで実施しており, ちょうど就職活動と重なったことで, 就職活動に支障をきたしたということであった。

教員以外に就職した卒業生にインターンシップの効果を聞いたところ, 「教育現場を知る機会になった」との回答が 76.9%と最も多かった。公務員や学校以外の教育関係に就職するものも多く, 現在の職務にも役立つとのことであった。次に多かったのが「子どもと接する機会になった」で 65.4%と半数以上であった。一方で, 「役に立ったところはない」も 9.2%に見られ, 教員就職の学生に対する教職実践インターンシップの効果的なあり方を考えると同時に教員就職をしない学生にとっての教職実践インターンシップのあり方も考えていく必要があると感じた。

3) 教職実践インターンシップを通じた4つの力の高まりに関する自己評価

現在教員である卒業生に対して、教職実践インターンシップによる学びが現在の教員としての資質を高めることに有効であったかどうかをたずねた。

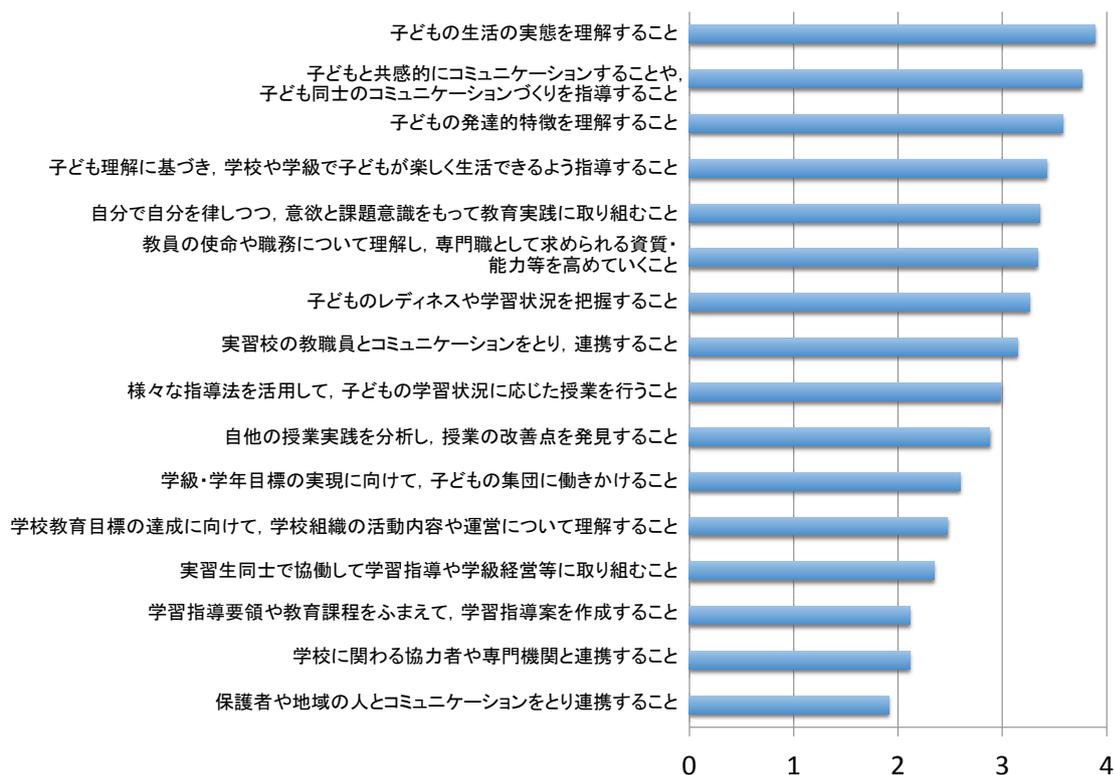
		全く伸びて いない	あまり伸びて いない	どちらとも 言えない	まあ伸びた	非常に 伸びた
学習指導力	子どものレディネスや学習状況を把握すること	6.9	19.1	20.6	<u>48.1</u>	5.3
	学習指導要領や教育課程をふまえて、学習指導案を作成すること	34.4	<u>36.6</u>	13.7	13.7	1.5
	様々な指導法を活用して、子どもの学習状況に応じた授業を行うこと	13.7	24.4	19.1	<u>35.1</u>	7.6
	自他の授業実践を分析し、授業の改善点を発見すること	19.1	21.4	17.6	<u>36.6</u>	5.3
生徒指導力	子どもの発達的特徴を理解すること	4.6	6.1	16.0	<u>62.6</u>	10.7
	子どもの生活の実態を理解すること	2.3	7.6	12.2	<u>55.0</u>	22.9
	子どもと共感的にコミュニケーションすることや、子ども同士のコミュニケーションづくりを指導すること	3.8	10.7	9.9	<u>56.5</u>	19.1
	子ども理解に基づき、学校や学級で子どもが楽しく生活できるよう指導すること	5.3	18.3	19.1	<u>43.5</u>	13.7
コーディネート力	実習生同士で協働して学習指導や学級経営等に取り組むこと	<u>31.3</u>	29.0	17.6	18.3	3.8
	実習校の教職員とコミュニケーションをとり、連携すること	11.5	22.9	19.1	<u>32.8</u>	13.7
	学校に関わる協力者や専門機関と連携すること	<u>36.6</u>	32.1	15.3	15.3	0.8
	保護者や地域の人とコミュニケーションをとり連携すること	<u>47.3</u>	26.7	14.5	10.7	0.8
マネジメント力	自分で自分を律しつつ、意欲と課題意識をもって教育実践に取り組むこと	10.7	9.9	23.7	<u>44.3</u>	11.5
	教員の使命や職務について理解し、専門職として求められる資質・能力等を高めていくこと	7.6	14.5	22.9	<u>46.6</u>	8.4
	学級・学年目標の実現に向けて、子どもの集団に働きかけること	23.7	25.2	22.1	<u>26.0</u>	3.1
	学校教育目標の達成に向けて、学校組織の活動内容や運営について理解すること	23.7	<u>29.0</u>	25.2	20.6	1.5

アンダーラインは最多回答率(%)

伸ばせた力	
学習指導力	32.3
生徒指導力	79.6
コーディネート力	15.1
マネジメント力	11.8

複数回答可 (%)

【伸ばせた力の得点化比較】



岡山大学教育学部が身につけるべき教育実践力として示している4つの力に対して、教職実戦インターンシップを通して高まった状況について調査を行った。最も高まった力は、強化分散型、長期分散型ともに「子どもの生活実態を理解すること」、「子どもと共感的にコミュニケーションすることや、子ども同士のコミュニケーションづくりを指導すること」、「子どもの発達的特徴を理解すること」、などの生徒指導力であり、79.6%と高い割合で伸ばせたと回答していた。次いで、「自分で自分を律しつつ、意欲と課題意識をもって教育実践に取り組むこと」、「教員の使命や職務について理解し、専門職として求められる資質・能力等を高めていくこと」などのマネジメント力の一部の得点が高かったが、全体としては11.8%と最も低かった。また、最も低かったのは「学校に関わる協力者や専門機関と連携すること」、「保護者や地域の人とコミュニケーションをとり連携すること」などのコーディネート力であり、伸ばせたと回答したのは15.1%であった。

教職実践インターンシップについてのアンケートのお願い【学校教育教員養成課程】

卒業生のみなさんへ

卒業後、みなさんはそれぞれの場所でご活躍のことと思います。この調査は、岡山大学教育学部が全国に先駆けて始めている教職実践インターンシップにおける皆さんの成果や課題等を把握し、今後のカリキュラム改善に役立てようとするものです。特に、卒業された後、教職実践インターンシップで学んだことがどのように生かされているのか、あるいは生かされていないのかを把握したいと考えています。また、教職につかれていない方にとって、教職実践インターンシップの意義についても確認したいと考えております。調査は無記名式で、得られた結果は全て統計的に処理し、個々の情報を外部にもらすことは一切ありません。また、アンケートの結果は、研究報告書や論文、学会発表等で使用する可能性もありますが、あなた個人にご迷惑をかけることはありません。ご理解とご協力をよろしくお願い致します。

尚、上記のような趣旨での調査ですので、在学中に教職実践インターンシップを履修されていない方は大変申し訳ありませんが、アンケートを破棄して頂ければと思います。

平成 29 年 12 月 23 日

岡山大学教育学部長 高塚成信

本件担当 副学部長 三村由香里 (mimurin@okayama-u.ac.jp)

設問の“子ども”は、自らが専門とする校種の子ども(幼児・児童・生徒)に置き換えて回答して下さい！！

回答はすべて、当てはまる番号または語句に○をつけてください(それぞれいくつ○をするかについては項目毎に記載してありますので、それを確認して回答して下さい)。

性別【 男 ・ 女 】

卒業年度【 平成25年度, 平成26年度, 平成27年度, 平成28年度 】

コース【 小学校 ・ 中学校 ・ 特別支援 ・ 幼児 】

専修【 】

インターンシップ校の地区【 岡山市 ・ 倉敷市 ・ 赤磐市 ・ 総社市 】

インターンシップ校の校種【 小学校, 中学校, 特別支援学校, 幼稚園 】

【 I 】教職実践インターンシップの履修状況や取り組んだ活動内容などについてお聞きします。

問1. 「教職実践インターンシップ」は前期必修(インターンシップ I : 1 単位)と後期選択(インターンシップ II : 1 単位)で構成し、I については40 時間(7 週以上, 9 日以上), II については40時間を目安に実施しました。あなたの履修状況について、次のうち、当てはまるものを一つ選び、数字に○をつけて下さい。

1. 必修の I (1 単位)のみ履修
2. 必修の I (1 単位)と選択の II (1 単位)を履修
3. 覚えていない

問2. 「教職実践インターンシップ」のおよその活動時間について、次のうち、当てはまるものを一つ選び、数字に○をつけて下さい。

1. 40時間以上45時間未満
2. 45時間以上50時間未満
3. 50時間以上
4. 覚えていない

問3. 問2でおよその活動時間が 50 時時間を超えた方にお聞きします。活動時間が多くなった主な理由として当てはまるものをすべてを選んで下さい。また、該当する理由が選択肢にない場合、[その他の理由:]内に記述して下さい。

1. 学校からの要望で、週1回の活動が4時間を越えて参加
2. 自分の希望で、週1回の活動が4時間を越えて参加
3. 学校からの要望で、週2回以上の活動に参加
4. 自分の希望で、週2回以上の活動に参加

[その他の理由:]

問4. 教職実践インターンシップにおいて、以下のような事柄について、経験したか、経験していないかをそれぞれお答え下さい。経験していない場合には、経験しなかったかどうか(経験しなかった方は「2」にも○)、経験した場合にはその活動を決めた状況(学校または自分のどちらの希望であったか)についても最も近いものを一つ選び、数字に○をつけて下さい。

	経験して いない	経験 しなかった	経験した	自分で 希望した	学校からの 指示	学校と相談 して決めた
1. 授業（保育）におけるTTとしての補助	1	2	3	4	5	6
2. 授業（保育）におけるメイン指導	1	2	3	4	5	6
3. 特別支援を要する子どもに対する個別支援や補助	1	2	3	4	5	6
4. 別室登校をしている子どもに対する個別支援や補助	1	2	3	4	5	6
5. 児童会・生徒会活動の企画・運営や補助	1	2	3	4	5	6
6. 保護者対応の補助や様子の観察	1	2	3	4	5	6
7. 職員会議への参加	1	2	3	4	5	6
8. 校務分掌の補助	1	2	3	4	5	6
9. 学級通信の作成や補助	1	2	3	4	5	6
10. 学級掲示物の作成や補助	1	2	3	4	5	6
11. テストの採点や補助	1	2	3	4	5	6
12. 修学旅行等の校外行事の引率補助	1	2	3	4	5	6
13. 1日または半日の代理担任	1	2	3	4	5	6
14. 放課後学習指導や補助	1	2	3	4	5	6
15. 教材研究	1	2	3	4	5	6
16. 朝の会・帰りの会の進行や補助	1	2	3	4	5	6
17. 給食指導や補助	1	2	3	4	5	6
18. 清掃指導や補助	1	2	3	4	5	6
19. 運動会・文化祭等の学校行事の補助	1	2	3	4	5	6
20. 校内研究会への参加	1	2	3	4	5	6
21. 部活動指導や補助	1	2	3	4	5	6
22. 教室に入れない生徒への対応や補助	1	2	3	4	5	6
23. 子どもの問題行動の指導や補助	1	2	3	4	5	6
24. 特別活動の企画・運営や補助	1	2	3	4	5	6
25. 休憩時間中の校内巡視や補助	1	2	3	4	5	6
26. 宿題の作成や補助	1	2	3	4	5	6
27. 提出物の点検や補助	1	2	3	4	5	6

問5. 毎回の活動日の最初に、インターンシップ先の担当の先生との打ち合わせ(例:その日の活動内容や注意事項など)をどの程度行いましたか？
1. 全く行っていない 2. 何回か行った 3. ほぼ毎回行った 4. 毎回行った

問6. 毎回の活動日の終わりに、インターンシップ先の担当の先生とその日の反省や振り返りをどの程度行いましたか？
1. 全く行っていない 2. 何回か行った 3. ほぼ毎回行った 4. 毎回行った

【Ⅱ】あなた自身についてお聞きします。

問1. 現在、あなたは教員として、小学校、中学校、高等学校(中等教育学校を含む)、特別支援学校に勤務されていますか。また、近い将来、勤務される予定がありますか。現在、勤務されている方、また予定がある方は以下の問いに答えて下さい。

現在、幼稚園に勤務されている方(勤務予定を含む)は【Ⅲ】に、教職に就かれていない方、また、就かれる予定がない方は【Ⅳ】に進んでください。

以下の事柄にどのくらい自信をもっていますか？それぞれ5段階で答え、当てはまる数字の一つに○をつけて下さい。

	全く自信がない	あまり自信がない	どちらとも言えない	まあ自信がある	とても自信がある
1.教科の専門知識をもつこと	1	2	3	4	5
2.子どもたちの発達段階や学習状況を考慮して一時間の学習指導計画を立てること	1	2	3	4	5
3.教科内容の系統性や原理を考慮して一時間の学習指導計画を立てること	1	2	3	4	5
4.子どもたちの発達段階や学習状況を考慮して単元計画を立てること	1	2	3	4	5
5.教科内容の系統性や原理を考慮して単元計画を立てること	1	2	3	4	5
6.子どもたちの発達段階や学習状況を考慮して年間の授業計画を立てること	1	2	3	4	5
7.教科内容の系統性や原理を考慮して年間の授業計画を立てること	1	2	3	4	5
8.単元計画を見通して一時間の授業の教材や指導案を作成すること	1	2	3	4	5
9.年間の授業計画を見通して一時間の授業の教材や指導案を作成すること	1	2	3	4	5

【Ⅲ】教職実践インターンシップを経験したことによる教育実践力の向上についてお聞きします。

問1. 率直にお聞きします。教職実践インターンシップは充実していましたか？

1. 非常に苦痛だった 2. どちらかと言えば苦痛だった 3. どちらとも言えない
4. 充実していた 5. 非常に充実していた

問2. 以下の項目は、大学として、教師になる上で身につけて欲しい教育実践力を、教職実践ポートフォリオに基づいて並べたものです。以下の1～16の力を伸ばすことに教職実践インターンシップがどの程度役に立ちましたか。それぞれ5段階で評定し、当てはまる数字の一つに○をつけて下さい。

	全く役立っていない	あまり役立っていない	どちらとも言えない	まあ役立っている	非常に役立っている	
学習指導力	1.子どものレディネスや学習状況を把握すること	1	2	3	4	5
	2.学習指導要領や教育課程をふまえて、学習指導案を作成すること	1	2	3	4	5
	3.様々な指導法を活用して、子どもの学習状況に応じた授業を行うこと	1	2	3	4	5
	4.自他の授業実践を分析し、授業の改善点を発見すること	1	2	3	4	5
生徒指導力	5.子どもの発達の特徴を理解すること	1	2	3	4	5
	6.子どもの生活の実態を理解すること	1	2	3	4	5
	7.子どもと共感的にコミュニケーションすることや、子ども同士のコミュニケーションづくりを指導すること	1	2	3	4	5
	8.子ども理解に基づき、学校や学級で子どもが楽しく生活できるよう指導すること	1	2	3	4	5
コーディネート力	9.実習生同士で協働して学習指導や学級経営等に取り組むこと	1	2	3	4	5
	10.実習校の教職員とコミュニケーションをとり、連携すること	1	2	3	4	5
	11.学校に関わる協力者や専門機関と連携すること	1	2	3	4	5
	12.保護者や地域の人とコミュニケーションをとり連携すること	1	2	3	4	5
マネジメント力	13.自分で自分を律しつつ、意欲と課題意識をもって教育実践に取り組むこと	1	2	3	4	5
	14.教員の使命や職務について理解し、専門職として求められる資質・能力等を高めていくこと	1	2	3	4	5
	15.学級・学年目標の実現に向けて、子どもの集団に働きかけること	1	2	3	4	5
	16.学校教育目標の達成に向けて、学校組織の活動内容や運営について理解すること	1	2	3	4	5

問3. 教職実践インターンシップによって、あなたの教師としての力量を高めるのに役立つと感じることを具体的に記述して下さい。

問4. 問3で記述したエピソードは「4つの力」のどの力を伸ばすことにつながったと考えていますか？(複数回答可)

1. 学習指導力 2. 生徒指導力 3. コーディネート力 4. マネジメント力

問5. 教職実践インターンシップ、および大学の授業等でこのような学びがなかったということがありますら、具体的に記入して下さい。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました！

【IV】教職実践インターンシップを経験したことによる教育実践力以外資質の向上等についてお聞きします。

以下の質問は、現在または予定も含めて、教職に就かれていない方にお伺いします。

問1. 現在の職種についておたずねします。

1. 教育関係(学校以外) 2. 製造業 3. サービス業 4. 公務員 5. 現在、職業についていない
6. 大学院等に在籍 7. その他()

問2. 率直にお聞きします。教職実践インターンシップは充実していましたか？

1. 非常に苦痛だった 2. どちらかと言えば苦痛だった 3. どちらとも言えない
4. 充実していた 5. 非常に充実していた

問3. 教職実践インターンシップが現在の生活に役にたっているとしたらどのような部分ですか？(複数回答可)

1. 教育現場を知る機会になった 2. 社会人としての生活を知る機会になった 3. 年上の年代の人と接する機会になった
4. 子どもと接する機会になった 5. 特に役立ったところはない
6. その他(具体的にご記入ください)

問4. 教職実践インターンシップがどのようなものであれば、教職に就かない方にとっても有意義になるとお考えですか。活動内容等について、具体的に記入してください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました！

教職実践インターンシップについてのアンケートのお願い【養護教諭養成課程】

卒業生のみなさんへ

卒業後、みなさんはそれぞれの場所でご活躍のことと思います。この調査は、岡山大学教育学部が全国に先駆けて始めている教職実践インターンシップにおける皆さんの成果や課題等を把握し、今後のカリキュラム改善に役立てようとするものです。特に、卒業された後、教職実践インターンシップで学んだことがどのように生かされているのか、あるいは生かされていないのかを把握したいと考えています。また、教職につかれていない方にとって、教職実践インターンシップの意義についても確認したいと考えております。調査は無記名式で、得られた結果は全て統計的に処理し、個々の情報を外部にもらすことは一切ありません。また、アンケートの結果は、研究報告書や論文、学会発表等で使用する可能性もありますが、あなた個人にご迷惑をかけることはありません。ご理解とご協力をよろしくお願い致します。

尚、上記のような趣旨での調査ですので、在学中に教職実践インターンシップを履修されていない方は大変申し訳ありませんが、アンケートを破棄して頂ければと思います。

平成 29 年 12 月 23 日

岡山大学教育学部長 高塚成信

本件担当 副学部長 三村由香里 (mimurin@okayama-u.ac.jp)

設問の“子ども”は、自らが専門とする校種の子ども(幼児・児童・生徒)に置き換えて回答して下さい！！

回答はすべて、当てはまる番号または語句に○をつけてください(それぞれいくつ○をするかについては項目毎に記載してありますので、それを確認して回答して下さい)。

性別【 男 ・ 女 】

卒業年度【 平成25年度, 平成26年度, 平成27年度, 平成28年度 】

インターンシップ校の地区【 岡山市 ・ 倉敷市 ・ 赤磐市 ・ 総社市 】

インターンシップ校の校種【 小学校, 中学校, 特別支援学校, 幼稚園 】

【 I 】教職実践インターンシップの履修状況や取り組んだ活動内容などについてお聞きします。

問1. 「教職実践インターンシップ」は前期必修(インターンシップⅠ:1単位)と後期選択(インターンシップⅡ:1単位)で構成し、Ⅰについては40時間(7週以上, 9日以上), Ⅱについては40時間を目安に実施しました。あなたの履修状況について、次のうち、当てはまるものを一つ選び、数字に○をつけて下さい。

1. 必修のⅠ(1単位)のみ履修
2. 必修のⅠ(1単位)と選択のⅡ(1単位)を履修
3. 覚えていない

問2. 「教職実践インターンシップ」のおよその活動時間について、次のうち、当てはまるものを一つ選び、数字に○をつけて下さい。

1. 40時間以上45時間未満
2. 45時間以上50時間未満
3. 50時間以上
4. 覚えていない

問3. 問2でおよその活動時間が 50 時時間を超えた方にお聞きします。活動時間が多くなった主な理由として当てはまるものをすべてを選んで下さい。また、該当する理由が選択肢にない場合、[その他の理由:]内に記述して下さい。

1. 学校からの要望で、週1回の活動が4時間を越えて参加
 2. 自分の希望で、週1回の活動が4時間を越えて参加
 3. 学校からの要望で、週2回以上の活動に参加
 4. 自分の希望で、週2回以上の活動に参加
- [その他の理由:]

問4. 教職実践インターンシップにおいて、以下のような事柄について、経験したか、経験していないかをそれぞれお答え下さい。経験していない場合には、経験しなかったかどうか(経験した場合は「2」にも○)、経験した場合にはその活動を決めた状況(学校または自分のどちらの希望であったか)についても最も近いものを一つ選び、数字に○をつけて下さい。

	経験して いない	経験 しなかった	経験した	自分で 希望した	学校からの 指示	学校と相談 して決めた
1. 保健教育(集団)におけるTTとしての補助	1	2	3	4	5	6
2. 保健教育(集団)におけるメイン指導	1	2	3	4	5	6
3. 特別支援を要する子どもに対する個別支援や補助	1	2	3	4	5	6
4. 別室登校をしている子どもに対する個別支援や補助	1	2	3	4	5	6
5. 児童会・生徒会活動の企画・運営や補助	1	2	3	4	5	6
6. 保護者対応の補助や様子の観察	1	2	3	4	5	6
7. 職員会議への参加	1	2	3	4	5	6
8. 校務分掌の補助	1	2	3	4	5	6
9. 学級通信の作成や補助	1	2	3	4	5	6
10. 学級掲示物の作成や補助	1	2	3	4	5	6
11. テストの採点や補助	1	2	3	4	5	6
12. 修学旅行等の校外行事の引率補助	1	2	3	4	5	6
13. 1日または半日の代理担任	1	2	3	4	5	6
14. 放課後学習指導や補助	1	2	3	4	5	6
15. 教材研究	1	2	3	4	5	6
16. 朝の会・帰りの会の進行や補助	1	2	3	4	5	6
17. 給食指導や補助	1	2	3	4	5	6
18. 清掃指導や補助	1	2	3	4	5	6
19. 運動会・文化祭等の学校行事の補助	1	2	3	4	5	6
20. 校内研究会への参加	1	2	3	4	5	6
21. 部活動指導や補助	1	2	3	4	5	6
22. 教室に入れない生徒への対応や補助	1	2	3	4	5	6
23. 子どもの問題行動の指導や補助	1	2	3	4	5	6
24. 特別活動の企画・運営や補助	1	2	3	4	5	6
25. 休憩時間中の校内巡視や補助	1	2	3	4	5	6
26. 宿題の作成や補助	1	2	3	4	5	6
27. 提出物の点検や補助	1	2	3	4	5	6
28. 救急処置におけるメイン対応	1	2	3	4	5	6
29. 救急処置の補助	1	2	3	4	5	6
30. 個別の保健指導	1	2	3	4	5	6
31. 学校環境測定(補助を含む)	1	2	3	4	5	6
32. 保健室での事務作業(スポーツ振興センターへの書類申請など)	1	2	3	4	5	6
33. 保健室等掲示物の作成	1	2	3	4	5	6
34. 学校保健における外部機関との連携(見学を含む)	1	2	3	4	5	6
35. 保健室経営計画立案に関する事項(見学を含む)	1	2	3	4	5	6
36. 学校保健計画立案に関する事項(見学を含む)	1	2	3	4	5	6

問5. 毎回の活動日の最初に、インターンシップ先の担当の先生との打ち合わせ(例:その日の活動内容や注意事項など)をどの程度行いましたか?
1. 全く行っていない 2. 何回か行った 3. ほぼ毎回行った 4. 毎回行った

問6. 毎回の活動日の終わりに、インターンシップ先の担当の先生とその日の反省や振り返りをどの程度行いましたか?
1. 全く行っていない 2. 何回か行った 3. ほぼ毎回行った 4. 毎回行った

【Ⅱ】あなた自身についてお聞きします。

問1. 現在、あなたは養護教諭として、勤務されていますか。また、近い将来、勤務される予定がありますか。現在、勤務されている方、また予定がある方は以下の問いに答えて下さい。

現在、養護教諭として勤務されていない方、また、その予定がない方は【Ⅳ】に進んでください。

以下の事柄にどのくらい自信をもっていますか？それぞれ5段階で答え、当てはまる数字の一つに○をつけて下さい。

	全く自信がない	あまり自信がない	どちらとも言えない	まあ自信がある	とても自信がある
1.救急処置の専門知識を持ち、実施すること	1	2	3	4	5
2.集団に対する保健指導の必要性を認識し、実施すること	1	2	3	4	5
3.個別の保健指導を行うこと	1	2	3	4	5
4.子ども達の健康課題に応じた健康相談・健康相談活動を行うこと	1	2	3	4	5
5. 学校教育目標をふまえて、学校保健計画を立案すること	1	2	3	4	5
6.必要な校内連携を行うこと	1	2	3	4	5
7.必要な校外連携を行うこと	1	2	3	4	5
8.養護教諭として、「専門性」を高め続ける努力をすること	1	2	3	4	5
9.保健室経営計画を立案すること	1	2	3	4	5

【Ⅲ】教職実践インターンシップを経験したことによる教育実践力の向上についてお聞きします。

問1. 率直にお聞きします。教職実践インターンシップは充実していましたか？

1. 非常に苦痛だった 2. どちらかと言えば苦痛だった 3. どちらとも言えない
4. 充実していた 5. 非常に充実していた

問2. 以下の項目は、大学として、養護教諭になる上で身につけて欲しい教育実践力を、教職実践ポートフォリオに基づいて並べたものです。以下の1～16の力を伸ばすことに教職実践インターンシップがどの程度役に立ちましたか。それぞれ5段階で評定し、当てはまる数字の一つに○をつけて下さい。

	全く役立っていない	あまり役立っていない	どちらとも言えない	まあ役立っている	非常に役立っている	
保健管理力	1.子どもの発育発達段階や生活背景、学校環境をふまえて、対応に生かすこと	1	2	3	4	5
	2.学校全体の健康実態を具体的に説明すること	1	2	3	4	5
	3.保健室に来室する子どもに対して、常に心と体の両面から対応すること	1	2	3	4	5
	4.緊急度や重症度に応じて判断し、対応すること	1	2	3	4	5
健康教育力	5.子どもが主体的に取り組める保健指導を実施し、その他の教育活動に結びつけること	1	2	3	4	5
	6.自らが記録分析した保健指導を振り返り、次の指導に生かすこと	1	2	3	4	5
	7.子どもの反応から、保健指導を振り返ること	1	2	3	4	5
	8.保健学習に協力すること	1	2	3	4	5
コーディネート力	9.実習生同士で学びを共有し、適切な助言や支援をすること	1	2	3	4	5
	10.協力してもらうための方策について、具体的に説明すること	1	2	3	4	5
	11.実習校における協力者や専門機関等との連携・協力の現状を理解すること	1	2	3	4	5
	12.学校が保護者や地域が連携・協力して行う活動に参加して、多くの人と話すこと	1	2	3	4	5

マネジメント力	13.高い意欲と課題意識を持ち続けること	1	2	3	4	5
	14.養護教諭の専門性を維持研鑽するための方法を説明すること	1	2	3	4	5
	15.保健室経営計画に基づいて活動し、自己の実践をふりかえって評価すること	1	2	3	4	5
	5.学校経営が組織的に行われていることを理解し、報告・連絡・相談しながら組織の一員として活動すること	1	2	3	4	5

問3. 教職実践インターンシップによって、あなたの養護教諭としての力量を高めるのみ役立っていると感じることを具体的に記述して下さい。

問4. 問3で記述したエピソードは「4つの力」のどの力を伸ばすことにつながったと考えていますか？(複数回答可)

1. 保健管理力 2. 健康教育力 3. コーディネート力 4. マネジメント力

問5. 教職実践インターンシップ、および大学の授業等でこのような学びがしたかったということがありましたら、具体的に記入して下さい。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました！

【IV】教職実践インターンシップを経験したことによる教育実践力以外資質の向上等についてお聞きします。

以下の質問は、現在または今後、教職に就かれていない方にお伺いします。

問1. 現在の職種についておたずねします。

1. 教育関係(学校以外) 2. 製造業 3. サービス業 4. 公務員 5. 現在、職業についていない
6. 大学院等に在籍 7. その他()

問2. 率直にお聞きします。教職実践インターンシップは充実していましたか？

1. 非常に苦痛だった 2. どちらかと言えば苦痛だった 3. どちらとも言えない
4. 充実していた 5. 非常に充実していた

問3. 教職実践インターンシップが現在の生活に役にたっているとしたらどのような部分ですか？(複数回答可)

1. 教育現場を知る機会になった 2. 社会人としての生活を知る機会になった 3. 年上の年代の人と接する機会になった
4. 子どもと接する機会になった 5. 特に役立ったところはない
6. その他(具体的にご記入ください)

問4. 教職実践インターンシップがどのようなものであれば、教職に就かない方にとっても有意義になると思いますか。活動内容等について、具体的に記入してください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました！

4. まとめ

4.1 強化分散型試行のまとめと課題

岡山大学において4年次生全員を対象とした教職実践インターンシップの実施は5年目を迎えた。「教職実践演習」と連動して行うことで、岡山大学が教育実践力として身に付けることが望ましいと考えている4つの力(学習指導力, 生徒指導力, コーディネート力, マネジメント力)を育成するための効果的な長期インターンシップを模索してきた。その間, 種々の課題について対応を行ってきたが, 当初から目指すところであった「長期分散(9日以上, 7週以上, 40時間以上)」の原則は保持しながら実施している。これまでの調査の中で, インターンシップは4つの力のうち, 生徒指導力を伸ばすことには有効であるが, その他の力は個人によって差があり, その中でも授業をメインで指導する活動をした学生は, 学習指導力以外のコーディネート力, マネジメント力が伸びていることはわかっていた。しかし, 現在の形態である週4時間程度の活動で授業をメインで任せていただくことは難しいと考えており, 今回, 教科分散型として2-3日を連続して活動する形態を試行として実施した。これは, 平成30年度から岡山大学教育学部が開始する「岡山県北地域教育プログラム」の中でのインターンシップも見通してのことである。このプログラムは, 人口減少が進む中山間地域である岡山県北部においては, 長期間その地に留まり, その地域の教育の将来を考える教員が少ないという岡山県教育委員会の課題に対応するために, 岡山大学がその地域で活躍する教員養成を目指してのものである。教育実習, インターンシップもその土地で行うため, 遠隔地での実施も視野に入れた試行であった。プログラムのキックオフシンポジウムにおいて今回の施行の成果と課題を岡山県教育委員会, 市町村教育委員会, 学校関係者, プログラム受講学生等に示し, 意見交換を行った。

今回の施行により, 学生のインターンシップでの活動の範囲が広がり, 目的としていた授業をメインで指導した学生は7割以上に増加した。また, 連続して活動を行うことで, 放課後を含めた教師の1日を体験することができたことは, 教員になる上で貴重な経験であったと考えられる。また, 学校が保護者や地域との関わりの上で成り立っていることの理解も深まり, 異世代, 異職種と接する機会も重要であったと考えられる。

強化分散型を実施した上での岡山大学教育学部教職実践インターンシップの課題を以下に挙げる。

- ① 学生のニーズ(活動内容, 活動形態)と実態が必ずしも合致しておらず, 多様な形態, ニーズにあった活動内容を考えていく必要がある
- ② 教職実践インターンシップの目的を関係者が共通認識できておらず, 活動を十分に資質向上につなぐことができていない。共通認識をはかり, 指導に活かせるよう FD などを行っていく必要がある

4.2 今後に向けて

当初の達成目標に対する評価を行った上で, 課題を踏まえ, 今後の方向性について示す。

大学	①長期学校インターンシップの効果と課題を明らかにした上で, 効果的な実施形態(期間, 日数等)や活動内容を示す →学生自身の課題意識に合わせた活動内容, また, 学生の進路に応じた形態を考える必要があり, これまでの長期分散から, 短期集中を含
----	---

	<p style="text-align: center;">めた選択肢を準備する検討を始めたい</p> <p>②モデル校における長期学校インターンシップを通して、大学教員が学校課題の解決のための支援に関わる体制を整備する</p> <p style="text-align: center;">→学校課題の解決のためには、継続的に多方面からの支援が必要であり、「学校支援」のための組織体制を整える</p>
--	--

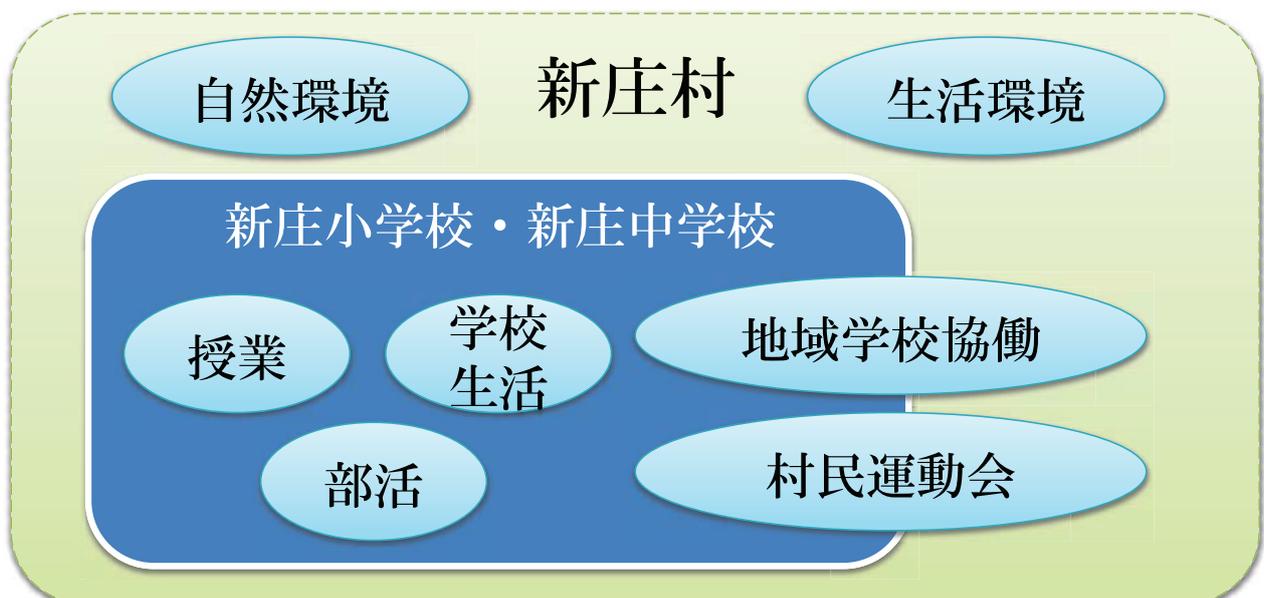
学校、教育委員会の達成目標については、課題の把握はできており、今後はその改善につなげるためには大学との連携も必要であると考えた。

長期学校インターンシップは卒業前の時期に自分の課題に応じて経験できる貴重な機会であり、その機会を有意義なものにするためには、正しい目的意識を持つことと、活動の振り返りであると考えられる。「教職実践演習」との連動を活かして、理論と実践を往還できる活動としていきたいと考える。

新庄村での教職実践インターンシップの概要

- 4年生必修の「教職実践インターンシップ I」(1単位)
 - 5月～9月@公立小・中学校
 - 従来, 岡山市, 倉敷市, 赤磐市, 総社市にて活動
 - 7週・40時間以上の活動
 - 新たに新庄村を追加
 - 新庄小学校・新庄中学校の両校をフィールドとする
 - 原則一泊二日: 宿泊に関わる経費は新庄村負担
 - 岡山駅～中国勝山駅: バス, 中国勝山駅～新庄村: 村教委の方による送迎
 - 7週・90時間程度の活動になった

新庄村での教職実践インターンシップの概要



新庄村での教職実践インターンシップの様子

- 現場へ

教職員の皆様による歓迎会

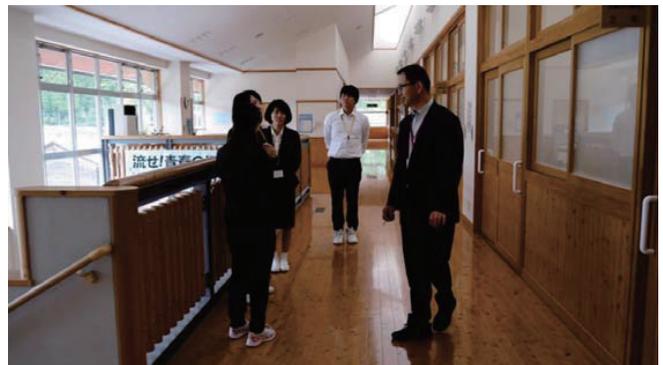


- 現場へ

学校長自らの学校紹介・オリエンテーション



学校案内



- 教育実践の現場へ

参観だけでなく、学習支援に入らせていただいた。
少人数学級の良い点、難しい点を傍らで体感。



- 教育実践の現場へ

中学生との懇談会では、年齢の近い先輩として悩みを聴きました。
子どもととても近い距離で関わらせていただきました。



- 教育実践の現場へ



小規模校の困難性：一教科一教員
少人数指導の強みと難しさ

授業づくりに
授業改善，学校改善への参画

- 学校行事の現場へ

学校と地域が一体となって準備・運営される村民運動会。
子どもたちだけでなく，地域の方々とともに準備作業を行いました。



- 学校行事の現場へ



地域に溶け込む学校の空気感
地域と学校で育つ子どもたちの様子

“お手伝い”的参加に留まる…
運動会が創られていくプロセスへの参画

- 地域学校協働の現場へ

地域と連携した授業（田植え）では、地域学校協働の実践を体験。



- 地域学校協働の現場へ



地域の方々の関わり方を知る
地域学校協働とコーディネーターの理解



“参画”ではなく、“参加”に留まる…
地域全体を知るに至らず…

- 地域へ

子どもたちが新庄村の観光名所をガイドしてくれました。
子どもたちの学習成果のひとつです。



- 地域へ

新庄村ならではの自然を満喫。
森林セラピー協議会と連携し、ボランティア・ガイドさんにガイドしていただきました。
子どもたちが夏に遊ぶ滝にも入りました。



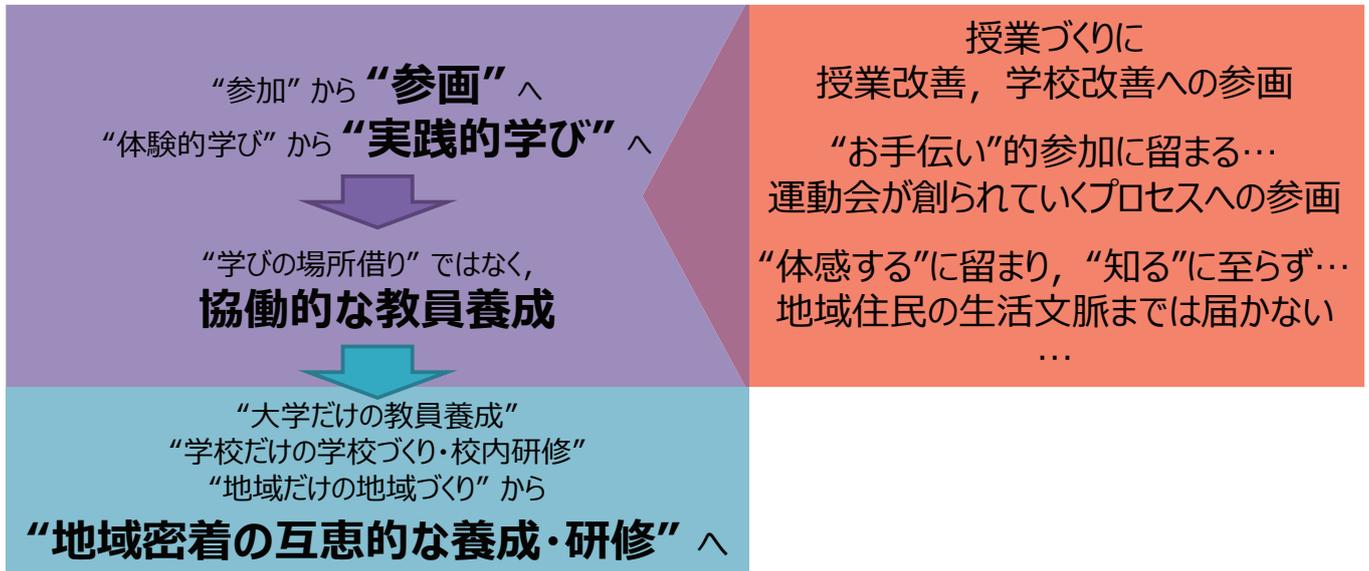
- 地域へ



子どもたちが生きる
自然的・地理的・歴史的空間を体感する

“体感する”に留まり，“知る”に至らず…
地域住民の生活文脈までは届かない…

地域教育プログラムの今後に向けて



協働的な教員養成，地域密着の互恵的な養成・研修に向けた課題

- 大学・学校の協働的な教員養成教育の実現に向けて
 - 学校現場にとっての意義・メリットは何か？
 - 大学と学校のwin-win関係の実現の条件とは？
 - 大学教員と学校教員とのコラボレーションの作法は？
- 地域密着の教員養成教育の実現に向けて
 - 実習は学校を超えられるか？地域学校協働の実践をフィールドにできるか？
 - 大学教員は地域に入れるか？
 - “よそ者・若者”としての学生を受け入れ，ともに育ててもらえるか？
- 互恵的な養成・研修の実現に向けて
 - 教員養成教育と学校づくり・校内研修をどう連動させるか？
 - 地域学校協働に対して大学はどう参画するか？
 - 地域が教員養成を「わが事」としてもらうにはどうすればいいか？

本報告書は、文部科学省の初等中等教育等振興事業依託費による委託事業として、《国立大学法人 岡山大学》が実施した平成29年度「教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」の成果を取りまとめたものです。

したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。

【発行】平成30年3月

【編集・発行】岡山大学大学院教育学研究科

〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1

TEL 086-251-7588

【印刷・製本】昭和印刷株式会社

〒700-0942 岡山市南区豊成3-1-2 7

TEL 086-264-6110

